JCAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

ワシントンDC日本商工会会報

6月号 2010年 No. 434

目次

- 商工会日本語教育支援プロジェクト「Walt Whitman HS企業プレゼンテーション」・・・・2
- 第一回会員交流会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 「ブラジル・米国関係」ケンブリッジ・アメリカ　中村慶子・・・・・・・・・・・6
- 「ジョージアへようこそ！」米国ジョージア州商務省・日本事務所 駐日代表　中薗由美子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 「Mission of Mercy: We Love Tohoku」Mark Flanigan, Rotary Peace Fellow International Christian University・・・・・・・・・・・14
- 「ハル・ノートと日米暫定協定～日米交渉とハル国務長官～(その二)」九州大学　三輪宗弘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 「ポトマック河岸逍遥」国防大学訪問研究員　萬浪学・・・・・・・・・・・・・19
- 「ワシントンスポーツ三昧　その3：ランニング編ーPart 1」インテレッセインターナショナル 渡邉聖子・・・・・23
- ワシントン月報(第77回)：服部健一・・・・・・・・・・・26
- ワシントンソーシャルライフ：シゲコ ボーク・・・・30
- 映画「EverythingMustGo」：長野さわか・・・・・・32
- 今月の書評「Wikileaks」：池原 麻里子・・・・・・・34
- 連載小説「ポトマックの煌めき」第5話 愛川耀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
- 今月の簡単レシピ：木内由紀・・・・・・・・・・・・・・・39
- English Rescue by Jennifer：「日本人が間違いやすい英語表現④」・・・・・・・・・・41
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

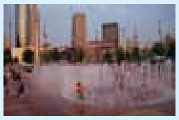
JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の特集

「ブラジル・米国関係」

天然資源の宝庫ブラジル。ケンブリッジ・アメリカの中村慶子様に、ブラジルの高度成長に伴う経済事情、また、米国や各国との関係等、大変詳しくご執筆頂きました。P.6

「ジョージアへようこそ！」



米国ジョージア州商務省・日本事務所の中薗由美子様に、ジョージアの文化、ビジネスそして見所等、盛り沢山な情報をご寄稿頂きました。P.10

「Mission of Mercy: We Love Tohoku」

ゴールデンウェーク中に被災地の石巻市へボランティア活動へ行かれたInternational Christian UniversityのMark Flanigan様。活動内容や被災地の近況などをレポート頂きました。P.14

「ハル・ノートと日米暫定協定～日米交渉とハル国務長官～(その二)」

九州大学三輪宗弘様の「ハル・ノートと日米暫定協定」シリーズ。第二弾は暫定協定案が葬り去られた原因についてご執筆頂きました。P.16

「ポトマック河岸逍遥」

今回で最終章を迎えました、国防大学訪問研究員萬浪様の「ポトマック河岸逍遥」シリーズ。ライト兄弟から現代の戦闘機までと、飛行機についてご教授頂きました。P.19

「ワシントン　スポーツ三昧　その3：ランニング編ーPart 1」

インテレッセインターナショナルの渡邉聖子様がお届けするスポーツ三昧のお話第3弾はランニング編です。学生時代のエピソードをご執筆頂きました。P.23

1819 L Street N.W., Level 1B, Washington, D.C. 20036 TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948 www.jcaw.org

商工会日本語教育支援プロジェクト
「Walt Whitman HS 企業プレゼンテーション」

商工会では、2012年桜100周年の記念事業として、昨年の夏から次世代を担う学生たちの日本語教育の支援その他日本に関する支援のプロジェクトを走らせております。

その一環として去る5月2日、ベセスダのWhitman高校のクラスにて、商工会理事の園田氏と柳原氏が日本の企業のプレゼンテーションを行いました。このクラスは、Demitra Marafatsos先生率いるInternational Businessのクラスで、高校の2～3年生18名ほどで構成されています。当日はそのクラスの生徒に加え、日本語クラスの生徒12名ほどが加わり、約30名のクラス2コマ、計60名ほどの生徒に対するプレゼンテーションが行われました。

園田理事はホンダモーターズの戦略、そして柳原理事は三菱商事のグローバル戦略に関してのプレゼンテーションを行い、45分の授業はあっという間に過ぎ去りました。校長先生と副校長先生も顔を出してくだいました。

クラスは大学のクラスと遜色のない雰囲気で、プレゼンテーションのあとには、活発な質問がかわされました。その内容も、「環境事業への取り組み」「各国政府や国際機関との協力」「短期でグローバルビジネスに成功する秘訣」「労働組合への取り組み方」「ホンダさんとトヨタさんの戦略の違い」「景気低迷期のインパクト」などなど、的を得たものが多く、クラスのレベルの高さを感じました。

日本語教育プロジェクトのほうでは、他の学校でもこのような機会を持てるよう、さらにレーダーを高くしております。次の機会にも是非商工会会員の方にご協力をお願いできたらと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。また、日本のビジネスに関するプレゼンテーションを必要としている学校やクラスなどをご存知の方は商工会までご連絡ください。

当日のクラスの様子が高校の学生新聞のトップに記事として掲載されましたので、ご覧ください。

http://www.theblackandwhite.net/2011/05/03/honda-and-mitsubishi-representatives-speak-to-business-classes/

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

第一回会員交流会報告

会員担当理事　細井 浩之

5月15日（日）、正午よりヴァージニア州アーリントンの拙宅アパートCourtland Towersのコミュニティー・ルームにて、記念すべき第一回会員交流会が開催されました。本交流会は、昨年末に実施した会員アンケートの結果、多数の会員がネットワーキング・イベントの開催を希望されていることが明らかになったことを受け、新年の総会で大辻新会長より開催をお約束していたものです。当初4月開催に向けて準備していましたが、大震災の影響により1ケ月延期していました。

オンラインによる申込は会場の定員の関係で一週間前に受付を停止しましたが、参加者は会員40名を含む大人48名、お子様が10名程でした。「会員に開かれた商工会」にとっての本イベントが果たす役割などを説いた大辻会長の開会挨拶のあと、過去1年以内に当商工会に入会またはワシントンに赴任された会員（実に22名！）から、お一人ずつ自己紹介のスピーチをしていただきました（スピーチは、日本語を解されない参加者に配慮して、全て英語で行われました）。参加者は、Tachibana Restaurantの出前による日本料理（寿司、てんぷら、おでんなど）に舌鼓を打ちつつ、スピーチに聞き入っておられ、その後も和気藹々とした雰囲気の内に会話を楽しまれていました。

5月に入会されたばかりの法人会員Kenbridge America LLC中村慶子様

日米女性弁護士のツーショット。左から黒田雪枝ジャネル様（USネイビー）と山田有美様

JSATインターナショナルの松藤浩一郎様

NYから駆けつけて下さったActus Consulting Group, Inc.の武田沙矢佳様

デトロイトからご転勤のNISSAN NORTH AMERICA, INC.佐川浩一様

知日派中国研究者として著名な日本総研理事・主席研究員の呉軍華様

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

会終了後に実施した参加者アンケートによれば、回答者の93%が満足、89%が次回も参加したい、と回答されています。また、52%が年2回の交流会開催を希望され、同じく52%がDC近郊のバージニア州にお住まいでした。会員限定のイベントとしたことにより、会員の口コミで交流会について知った複数の方から入会申込をいただくなど、うれしい反響もございました。今後、アンケートに寄せられたご意見を参考に、フォーマットなど改善すべきは改善しつつ、定例イベントとして定着させたいと考えます（次回交流会は、今秋にも、公平の観点から、多くの会員が居住されるメリーランド州ベセスダにて開催する方向で検討しています）。

最後になりますが、吉村総務担当理事には、本交流会の企画・立案にあたってきめ細かいご助言ならびにご指導、及びマイクロフォンなどの機材のご提供を得ました。会にはご欠席でしたが、米山幹事からは、ご多忙にも関わらず、当地女性の圧倒的な人気を誇るお手製チーズケーキをご提供いただきました。おにぎり作り、入場受付などのボランティアを、堀江知子さん、中島由紀子さんにお願いしました。お名前は割愛させていただきますが、多数の参加者が会終了後も残って会場の片付けを手伝って下さいました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

NEXCO-West USA, Inc.の松本正人様

日英バンリンガルで金融分野などの和文英訳がご専門のサンドラ・純・ヘィベンズ様

電力などがご専門の世界銀行高橋正貴様はトライ・アスリートとしても知られます

本年4月、日経新聞東京編集局経済部よりワシントン支局にご赴任された矢沢俊樹様

JET同窓会のリーダー、リアン・マストリーニ様

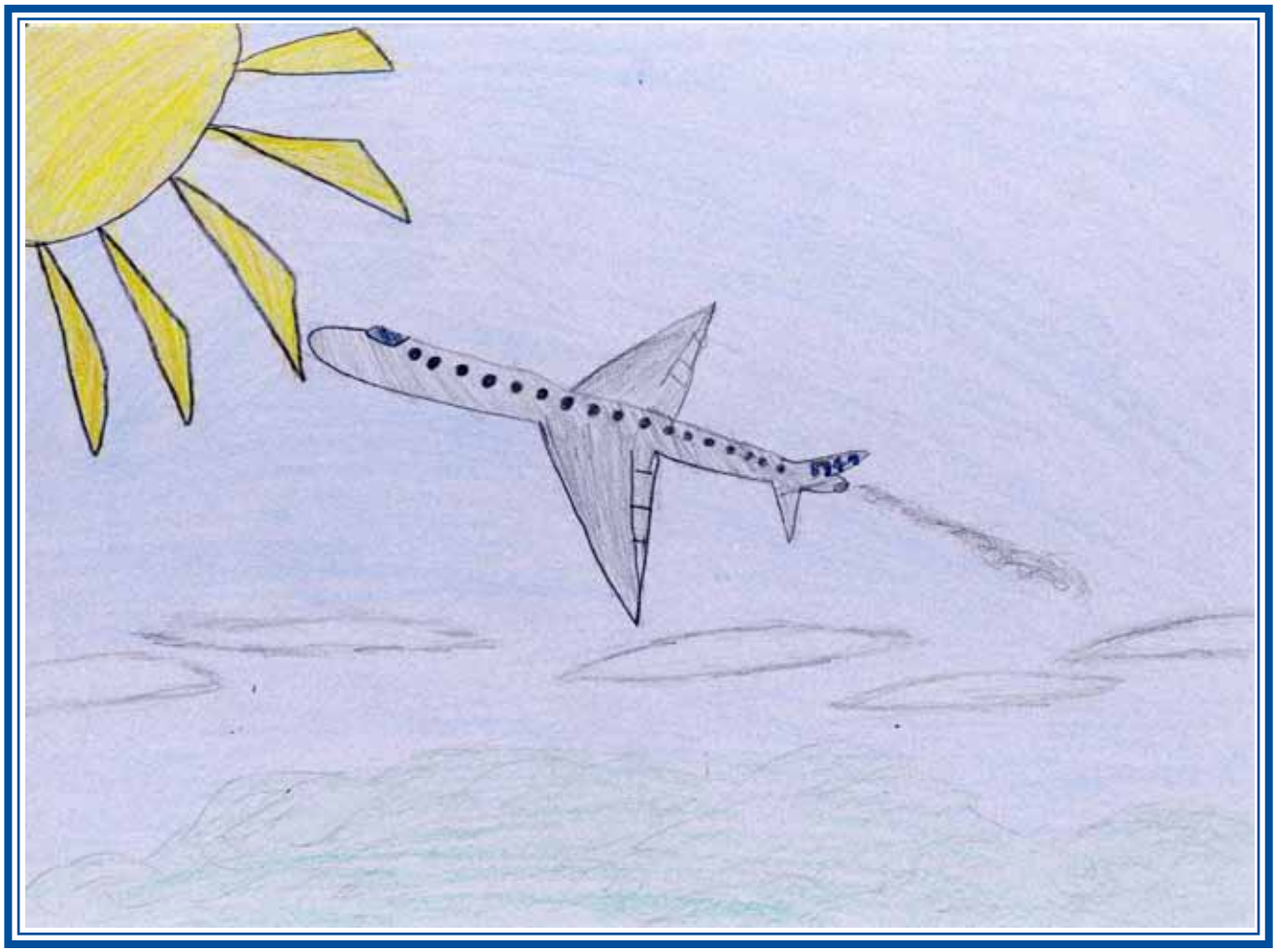
（財）運輸政策研究機構の諏訪達郎様ご夫妻はご自身の送別会後に駆けつけて下さいました（5月末ご帰任）

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

イラスト募集

お子様の素敵な絵を載せてみませんか？
詳細はJCAW事務局
office@jcaw.orgまで
お尋ね下さい。
奮ってのご公募お待ちしています。

Illustration by Emi Kikuchi



イラスト：マクファーランド・ケネスくん　9歳

JCAW Copyright © 2010 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「ブラジル・米国関係」

ケンブリッジ・アメリカ　中村 慶子

1. 躍進するブラジル経済

ブラジルは、広い土地と豊かな天然資源に恵まれ、長い間、「可能性を秘めた国」と呼ばれてきました。1985年に、21年間続いた軍政から民政に移管しましたが、累積債務問題とハイパーインフレーションに悩まされ、経済的に不安定な状態が続きました。しかし、2000年代に入って、カルドーソ及びルーラ政権の下、急速に経済発展し、中国、インド、ロシアと共にBRICsとして世界から注目を浴びる存在となりました。IMFの統計によると、ブラジルの2010年の名目GDPは世界第7位と推測されていますが、2016年には英仏を追い越して5位まで上昇することが予想されています。一方、ブラジルの人口は、ブラジル地理統計院のデータによると、2000年から2010年の間に12%増加し、現在1億9千万強で、2030年のピーク時には2億を超える見通しです。

ブラジルでは、従来から貧富の格差が問題になっていました。しかし、近年の好調な経済発展に加えて、貧困削減政策が功を奏し、Fundação Getúlio Vargas(FGV)の調査では、2003年から2009年の間に、2,000万人が最貧困階層を脱出し、中間所得階層が38%から50%に拡大しています。人々の購買力が向上することにより、衣料、食料品等に加えて自動車や家電製品といった耐久消費財の売り上げが急速に伸び、消費者市場は目を見張るほど活性化しています。勢いよく発展していく自国に、これまで懐疑的だったブラジル人達も、「今度こそ本物。やっと自分たち番が回ってきた」という熱い想いを抱いています。

ブラジルの経済成長の重要な要因の一つとして、健全なマクロ経済政策以外に、中国の経済成長が挙げられます。中国の旺盛な需要は、鉄鉱石や大豆といったブラジルの主要輸出産品の価格を上昇させるとともに、ブラジルの対中国輸出を大きく促進しました。その結果、ブラジルの外貨準備高は増加して、2007年には純債務国から純債権国へと移り変わりました。また、中国は、エネルギー・鉱業・食糧部門において、ブラジルをはじめとするラテンアメリカに大規模の投資を行っています。先進国経済への依存度が比較的に低かったブラジル経済は、2008年の世界金融危機の影響を少しは受けたものの、早くから回復に向かいました。

石油に関しては、沿岸の油田開発が30年前から行われており、2006年には100%自給化を実現しました。その頃から、「プレサル」超深海石油・天然ガス田が次々と発見され、ブラジル石油監督庁（ANP）が発表した昨年の石油埋蔵量は、約140億バレルですが、岩塩層下原油は1,500億バレルとも言われています。今後この油田が開発されていくと世界有数の産油国になる可能性を持っています。ブラジルは、独自の技術を開発して、これらの油田を発見しました。その深海油田探査・掘削技術は世界最高水準にあります。また、バイオ燃料では、アメリカに次ぐエタノール生産国で、世界に先駆けて、フレックス車を生産しました。油田開発を中心とするエネルギー分野での調査・研究のために世界の大企業や研究所がリオデジャネイロに相次いでR&Dセンターを設置したり、この5月初旬にアメリカと合同で開催したヒューストンでのエネルギー関連会議に世界各国から多くの参加者が集まったと

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ころを見ても、ブラジルがエネルギー分野における世界のリーダーとして期待されていることは明らかです。

ブラジルでは、高度成長を維持するために、空港、港湾、鉄道、道路、電力等のインフラの整備が急務となっています。2007年1月、第二次ルーラ政権発足直後に、経済成長加速化計画（PAC）が打ち出され、物流、エネルギー、社会・都市インフラ整備を中心に、22007年から2010年の4年間に、パートナーシップの民間投資を含めた3,497億ドルがつぎ込まれることになりました。2010年には、さらに、エネルギー部門への投資を主体とした、投資総額約9,443億ドルに上るPAC2が公表されました。現在インフラ整備計画の実施には遅れをとっていますが、2014年にサッカーワールドカップ、2016年にはリオデジャネイロでオリンピックが開催される予定で、このような国際イベントに間に合わせるためにも、今後インフラ整備が急速に進むものと見られています。

2. 中南米がバックヤードでないことに気づいたアメリカ

ブラジルの最大の貿易相手国は、2008年までは、アメリカでした。アメリカは、距離的に近い中南米における自国の影響力や権益を当たり前のものと考えてきた傾向があり、アメリカに対して嫌悪感をもつブラジル人も少なくありません。しかし、2009年上半期に、中国がアメリカを抜いて第一の貿易相手国となりました。1990年代からの中国のめざましい経済成長は、アメリカのビジネス界に中国ブームを引き起こしましたが、中国台頭の影響を受けたのは、米中関係だけではなかったのです。1999年には、80億ドルにすぎなかった中国—ラテンアメリカ間の貿易額は、2009年には、実に16倍の1,300億ドルを計上しました。

一方、投資面でも、2010年に中国による直接投資が急速に拡大し、前年の29位から浮上して、中国がブラジルにおける最大の海外投資家となりました。ブラジル中央銀行の発表によると、2010年の投資額は、2009年の146倍にあたる120億ドルが推計されています。中国は、豊富な外貨準備を使い、鉄鉱石などの天然資源をはじめ、農地、送電網、油田の権益などを買い集めてきましたが、最近では、ブラジルの求めるインフラ整備にも資金を大量投入しようとしています。

2011年4月26日付けのファイナンシャル・タイムス紙は、ラテンアメリカ特集を組み、中南米における中国の影響力拡大を大きく取り上げています。フォーブス誌による「世界の富豪リスト」第8位に名前を連ねるエイキ・バチスタ氏が中国からの投資を受けてリオ州沿岸に建設中の、広さマンハッタン島の約2.5倍というアス・スーパーポートが別称「中国への高速道路」と呼ばれるのも、ブラジルにおける中国の存在感を表す象徴でしょう。

豊かな資源、急速に拡大している消費者市場、相次ぐ国際イベントのためのインフラ整備など、ブラジルの提供するビジネスチャンスに目を向けているのは中国ばかりではありません。韓国企業も自動車や家電製品を中心に、目立つ宣伝と低い価格で、積極的にブラジル進出を図っています。また、インドも、CEOフォーラムを再開し、IT、エンジニアリング、インフラ、原油、原発等における技術協力の可能性を探るなど、両国の関係強化に前向きな姿勢を示しています。

アメリカは、ラテンアメリカにおける影響力の低下を懸念し始めました。アメリカにとってラテンアメリカは、政治面でも経済面でも重要な存在です。3月中旬、中近東および北アフリカでの騒乱、日本での大震災という難しい状況の中、最後まで中止を危ぶまれながらもオバマ大統領がブラジルを含めた中南米3カ国訪問を敢行したのには、それなりの理由があるからでしょう。翌4月には、ルセフ大統領は中国を訪問し、胡錦涛国家主席をはじめとする中国の指導者らと会談した後、中国・インド・ブラジル・ロシア・南アフリカの5カ国首脳会議に出席しています。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

南南関係が緊密化していく中、米政府はブラジル政府との関係強化に近年熱心に取り組んでいます。ブッシュ政権時代の2006年から2007年にかけて、民間セクターに焦点を置いたCEO Forum、商業政策中心のCommercial Dialogueおよび経済政策中心のEconomic Dialogueが発足し、実業界のリーダー間や政府高官間で年に1、2回話し合いの場が持たれてきました。更に両国関係を強化するため、2010年3月、クリントン国務長官とアモリン外務大臣間でGlobal Partnership Dialogue、2011年3月、マンテガ財務相とガイトナー財務長官間でEconomic & Finance Dialogueへと進展しています。エネルギー分野ではStrategic Energy Dialogueが設けられ、特にスマートグリッドなどのクリーンエネルギー関連面での技術協力が行われる見通しです。

アメリカでは、ここ数年、ブラジルやラテンアメリカ経済に関するセミナーが数多く開かれています。また、商務省国際貿易局や州の商工会によるビジネスミッションが組まれ、大企業ばかりではなく、中小企業もブラジルを訪れてはビジネスの契機を窺っています。

3. ブラジルから見たアメリカ

ブラジルとアメリカの間には、ブラジルがアメリカ木綿農業補助金に関してWTOへ提訴した経緯があります。2009年8月、WTOは、ブラジルに対米貿易において知的財産権を含む約8億2,000万ドルに値する報復措置を認める裁定を下しました。

アメリカは、ブラジルの報復措置を回避するため、昨年4月にブラジル側に支払いを行うことで合意に至りました。また、今年2月にも、ブラジルは、アメリカに対してオレンジジュースでWTOで勝訴しています。

このように、ブラジルとアメリカとの貿易関係に問題がないわけではありません。しかし、ブラジルの対米貿易の内訳は、輸出の84%が一次産品、輸入の98%が製品という対中国貿易とは明らかに異なり、22010年1～8月の統計では、72%が製品・半製品で占めらています。その中には、代表的なものとして、航空機、自動車部品、工業用エンジン等が含まれています。中国からの大量流入する安価な製品に自国の製造業が打撃を受けていることを認識したブラジルにとって、アメリカはよりバランスのとれた貿易相手である点で非常に魅力的です。

投資面においても、ブラジルは、当初中国からの投資をアメリカに対するカウンタウェイとしても歓迎しましたが、あまりの勢いに、最近、国が買い占められるのではないか、中国による市場支配が高まるのではないかと警戒心を高める気配が見られます。

また、これまでの石油と一次産品に集中した投資は、ブラジルの発展につながらないとの批判も受けました。ブラジルは外国人による大規模の土地購入に対する規制を強化しています。

他方、アメリカの大企業は、地域への貢献や現地雇用の拡大を通してブラジルに根付いてきました。長年にわたって培ってきた絆がある点で、アメリカは優位にあります。

ブラジルは、このところ、アメリカからの投資を見直し、その誘致に非常に熱心に取り組んでいま

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

す。特に民間投資が必要なエネルギー分野とインフラ分野において、アメリカからの投資が求めてられています。この2ヶ月間に、リオ州知事やバチスタ氏らがワシントンを訪れ、リオ州とリオ市が相次いでワシントンで投資フォーラムを開催していることも、その積極的な態度の表れといえるでしょう。

4. 今後のブラジル・米国関係

世界は非常に速いペースで変化しており、国際関係は多極化していると言われています。ブラジル・米国関係も例外ではありません。もはや二国間だけを見ていてはその関係は語れません。特に中国の存在を考慮しないわけにはいきません。今後、ブラジル・米国、ブラジル・中国、米国・中国という関係の中で、各国は、お互いの動きを注視し、バランスを取りながら、自国の利益を追求していくことでしょう。

また、これから、インドはどのような形でこれら三国に関与してくるのでしょうか。非常に興味深いところです。

一つ確かなことは、ブラジルはもはやアメリカの陰に隠れた存在ではなく、アメリカと対等な関係にあるということです。両国は、ここ数年の経験を通して、たとえ意見の対立はあっても、お互いになくてはならない重要なパートナーであることを認識したことと思います。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「ジョージアへようこそ！」

米国ジョージア州商務省・日本事務所
駐日代表　中薗 由美子

この度はワシントン日本人商工会様のニュースレターへ寄稿させていただける機会をいただきまして、誠にありがとうございます。米国南東部に位置するジョージア州は、ワシントンDCからですと飛行機で1時間ほどで来ていただける場所で、一度でもお越しいただければ州の至るところでその豊かな色彩・文化を感じていただけるものと思います。ジョージア州の歴史には大胆な発想、時代を超えて今もなお残る古きよき時代のなごり、そして自由で闊達な精神がタペストリーのように織り込まれており、1733年の誕生以来豊かな歴史、商業、音楽、芸術に溢れた独自のアイデンティティを築き上げてきました。

アメリカ南部の魂が息づくこの場所には、活気溢れる都市、静かな海岸線、雄大な山脈があり、またもう1つの魅力は素晴らしい四季があることです。四季のそれぞれに豊かな特色があり、様々なアウトドアライフを楽しむことができます。ハイキング、ハンググライダー、マウンテンバイク、ホワイト・ウォーター・カヤックなど、エキサイティングなアウトドアが満載です。特にノースジョージアのピードモントからカンバーランド・ブリーリッジにつながる丘陵・山脈地帯は、日本をも思い起こさせてくれる風景を醸し出しており、ジョージア州からメイン州まで続く米国でも有数なアパラチアントレイルは、ハイキングで1日たっぷり過ごすこともできれば、数か月に及ぶアドベンチャー旅行に挑戦することもできます。ジョージア州中部へと足を伸ばせば、そこは広大な農業地帯で、綿畑や大豆畑などがはるか彼方まで広がっています。さらに農耕地から森林へと州の南部を旅すると、はるか東海岸まで森林地帯が続き、さらには海岸平野、手付かずのビーチが残されています。ジョージアを代表する海岸都市であるサバナは別名ガーデンシティと呼ばれ、息をのむような美しさの広場で知られており、そのサバナからセント・メリーズ川まで160キロの長さにも及ぶ海岸線では孤立したビーチや静かな沼地、歴史が刻まれた灯台、石畳の町並みが独特の雰囲気を醸し出し、えも言われぬ癒し・安らぎを与えてくれることは間違いありません。

ジョージアに欠かせないもう1つのアウトドアライフといえば、やはりゴルフ・・・ジョージアから伝説的なボビージョーンズをはじめとした数々のトップゴルファーが生まれています。州内にはそういったプロゴルファーやデザイナーたちによって開発・設計された美しいゴルフコースが多数あり、PGAイベントの開催地ともなっています。それらトーナメントの中で最も有名なものが、オーガスタナショナルゴルフクラブで毎年4月に開催されるマスターズです。また州内にはそれら美しいゴルフコースをモチー

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

フにしたゴルフリゾートがいくつも存在します。ここではそのゴルフリゾートの中で、ジョージア州中央部に位置している「リッツカールトン・ロッジ・アト・レイノルズプランテーション」をご紹介させていただきます（www.ritzcarlton.com/en/Properties/ReynoldsPlantation/Default.htm）。アトランタ市内からI-20号線を東へ1時間ほど走ったレイク・オコニーの湖畔にあり、きらきらとした湖の水面と辺りの静けさが訪れる人を迎い入れてくれる、そんな雰囲気の中でゴルフを楽しみたい人、フィッシングでリラックスした時を過ごしたい人、古き良き南部の町並みを散策したい人、あるいはスパを満喫したい人、人それぞれの目的に合った過ごし方をこのラグジュアリーホテルリゾートは提供してくれます。The Ritz-Carlton Hotel Companyが2002年にオープンしこのリゾートは、敷地面積35エーカー、設備の整った251室のゲストルームとスイート、ミーティングルーム10室を含む15,000平方フィートを超えるミーティングスペース、フルサービスのスパとフィットネスセンター、さらに敷地内には6つのゴルフコテージ、そして著名な設計者が手掛けた99ホールのチャンピオンシップ・ゴルフコースから成っています。「コンデ・ナスト・トラベラー」誌の2006年度ゴールド・リストで「世界最良の滞在先」に名を連ね、2011年には"AAA Five Diamond Lodging"並びに"Forbes Four-Star resort"にも選ばれています。

次にジョージア州の州都であるアトランタのご紹介を少しさせていただきます。米国南東部の商業・文化の中心地的な役割を果たしているアトランタには、様々な名所、ショッピング、ナイトライフ、スポーツそしてエンターティメントがあります。また別名「コンベンションシティ」とも呼ばれているアトランタでは、毎日のように様々なコンベンション・トレードショーが開催されています。アトランタのランドマーク的存在となっている、コカ・コーラミュージアム(www.woccatlanta.com)、CNNスタジオ(www.cnn.com/tour/atlanta/)、風と共に去りぬ博物館(www.MargaretMitchellHouse.com/GWTW75)なども見逃せない名所です。スポーツファンには、アトランタで様々なプロスポーツの試合をお楽しみいただけます。大リーグ・ナショナルチームのアトランタ・ブレーブス、アメリカンフットボールのNFLアトランタ・ファルコンズ、バスケットボールのNBAアトランタ・ホークスなどの試合をアトランタでは観戦できます。音楽ファンであればここはソウルミュージック、ゴスペル、リズムアンドブルース(R&B)、など様々なジャンルの音楽のルーツを見出せる場所であり、ジャズからロックまでアトランタでは年間を通じて南部最大級のフェスティバルが幾つも開催されています。

ここからはジョージア州全体の経済・産業に関する情報をお届けしたいと思います。1960年代から1980年にかけてジョージア州の人口は急増し、1980年のアトランタ空港の大拡張工事などの要因も相まって州経済は大きく発展しました。

米国南東部は全米で最も成長している地域であり且つ最もビジネスコストや生活費などが安価な場所としての地位を誇っていますが、ジョージア州はその南東部地域で最大の面積を持ち、人

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

口は1,000万近くに達しており、その半分以上は州都アトランタの周辺に集まっています。ジョージア州には現在世界50カ国以上から3,000社以上の企業が進出しており、17万人以上のジョージア州民を雇用しています。その進出をリードしている国が、日本、韓国、カナダ、ドイツ、イギリスです。その中でも日本企業は特に現地での雇用者数、工場拠点数並びに総投資額で第1位となっており、州経済に大きく貢献しています。また本社機能に適したロケーションという裏付けとして、The Coca-Cola Company、The Home Depot, United Parcel Service (UPS)、Delta Air Lines、AFLAC、Southern Company、SunTrust Banks, AGCO、Newell Rubbermaid を含めたフォーチュン500に挙げられる企業の14社がジョージア州に本社を置いています。現在ジョージア州には66の国々の総領事館、貿易事務所、合同商工会議所も存在しています。産業クラスターとしては、先端製造業、航空産業、農業関連産業、エネルギー、ライフサイエンス、流通産業などが、ジョージア州にとって今後発展成長していく産業として戦略的に位置付けられています。

ジョージア州はその地理的位置付けにより、世界的規模での競争を望む企業にとって優位な場所です。ハーツフィールド・ジャクソン・アトランタ国際空港は、ここ数年連続世界一乗降客数の多い空港となっており、世界50ヶ国の80都市と路線が結ばれ、2010年には乗降客数が9,000万人に達しました。また同空港からの国内線の便はアトランタを全米150以上の都市と結んでおり、米国市場の80パーセントに2時間以内のフライトで到着できます。日本との直行便もあります。全米で最も成長している港であるサバナ港は、米国東海岸で最も大きいコンテナ港であり、100以上の商船が行き来し、日本を含むアジアの幾つもの港との定期船もあります。地上輸送においては、アトランタを交差する3本の州間高速道路と州内2万マイルに及ぶ国道及び州道が毎日大量の積荷をさばいています。ジョージアはまた米国南東部最大の鉄道網を有し、1本化された南東部最大の輸送ハブシステムを抱えています。それら全てがジョージアで交わり、ジョージアを各地とつながる交通の要衝に位置付けており、このような州内の交通ネットワークは、ニューヨークやカリフォルニアに匹敵する規模と言われています。

ジョージア州に事業拠点を構えようと考えている企業に対して州政府及び地元自治体では、いろいろな誘致奨励制度・プログラムをご用意・ご提供しております。雇用税額控除制度、本社移転税額控除制度、売上税・使用税免除制度、研究開発奨励制度等々のインセンティブに加えて、2008年からは「単一要素法人所得税課税制度」(ジョージア州に起因する所得のみがジョージア州法人所得税の課税対象となるという制度)が、州の税制改革の一環として完全導入されております。ジョージア州商務省では企業のジョージアへの進出に際してありとあらゆる支援をご提供させていただいております。また、

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ジョージアへの進出が決定した後も、進出企業との関係は継続します。進出企業との友好的関係を育み、支援させていただく体制を築いており、現地での事業拡張において活用いただける奨励制度・プログラムについて情報提供を行ったり、州内での新しい場所をお探ししたり、またジョージアの拠点からものやサービスを輸出するチャンスのお手伝いもさせていただきます。

このようにジョージア州商務省はstate government agencyとしてグローバルなそしてワンストップ機関として、皆様のビジネスの成功のためにジョージア州の持ちうるものをお客様のニーズに合うようにご提供しており、海外では10の国に海外オフィスを持っています：米州地域ではカナダ・メキシコ・ブラジル・チリに、ヨーロッパ・中東地域ではドイツ（ヨーロッパ本部）・イギリス・イスラエルに、アジア地域では日本・韓国・中国。企業活動を行う上でジョージアをご検討・お選びいただけましたら、私共にて最大限のお手伝いをさせていただきます。

連絡先：

米国ジョージア州商務省 日本事務所
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-7-16 ビュロー虎ノ門 205
TEL: 03-3539-1676 / FAX: 03-3504-8233 / E-mail: gatokyo@gol.com
http://www.georgia.org/
http://www.georgia-global.org/jp/

イラスト：マクファーランド・ジュリアナさん 7歳

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「Mission of Mercy: We Love Tohoku」

Mark Flanigan, Rotary Peace Fellow
International Christian University

The massive earthquake, tsunami and nuclear crisis which hit Northeastern Japan completely devastated much of the fisheries and agricultural industries in the region, as well as the livelihoods of many of the people living there. Specifically, the combined 3/11 disasters decimated the fishing industry in Miyagi Prefecture, which had produced 80 percent of Japan's oyster seeds in the past few years. Japan's seabed moved by as much as 79 feet (24 meters) during the giant earthquake—the largest earthquake slip ever recorded, scientists say.

Like many foreigners living in Japan, I wanted to help out in some way, but did not know how. I had been traveling outside Japan during spring break, visiting my sister in Russia, and had to fly back to the US for a few weeks. Once it was determined to be safe enough for people in my Rotary Peace Fellows academic program to return, I finally came back to Tokyo. Once I resettled into school here at ICU, I heard of a unique volunteer opportunity that would allow me to contribute to the Tohoku relief efforts in some way.

From May 3rd-7th, over Golden Week in Japan, I was part of a combined volunteer group (male and female) of 90 Japanese students and 35 international students from over 20 different countries. We traveled north on buses provided by the Seibu Lions up to Ishinomaki, Miyagi prefecture, as student volunteers for the "The ROAD Project." This Project was sponsored by the Nippon Foundation, in conjunction with Gakuvo and the Nikkei Youth Network. Our main task was to help the fishermen and oyster producers in the Fukiurahama, Oshikahama, Makinohama, Sudachiurahama and Kitsunezaki communities, to help remove the earthquake and tsunami-related rubble and collect valuable fishing equipment that would be essential once their industry hopefully recovers.

Although I had previously worked on disaster preparedness and response issues in my previous job with the US government, this was my first time ever seeing a disaster zone firsthand, which was completely unlike anything I have ever experienced. As our buses rolled through central Ishinomaki city, we witnessed mile after mile of destroyed shops,

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

schools, factories, houses, cars and ships cast from sea upon the land. Even though I had seen the images of Tohoku on TV and on the Internet, the sensory overload of so much destruction was nearly overwhelming up close. It was quite hard for me and many of the other volunteers to deal with processing all the overwhelming sights and smells in person. Nonetheless, we knew we were there to help people in need and we went straight to work.

Our work involved cleaning up houses that had been flooded by sea water, retrieving buoys and anchors that had been scattered all about the peninsula by the force of the tsunami, and collecting shells that were used to harvest the oyster catch each year. Naturally, the fishermen and their families were a bit hesitant to open up to us at first, but we gradually built up a level of trust with them that allowed us to assist them in the massive clean-up job at hand. Although we were just there a few short days, we were hopefully able to make some impact in their lives, no matter how small. The people of these communities really impressed me with their strong spirit and desire to continue life in the face of such tragedy, even though their homes were destroyed and ability to work severely impacted by 3/11.

On a personal note, I could not help thinking of Ms. Taylor Anderson, the young JET Program participant who lived in Tohoku and died in the Tsunami that ravaged her community there. As a former JET myself, I was moved by her sacrifice, and felt glad to give something back to the region in her honor. Although I never met Taylor, she and I both shared a deep love for Japan and its ancient culture. I hope I was able to honor her memory in some way by helping out in the region she called home these past few years.

In closing, I would very much like to thank those survivors in Ishinomaki who accepted us as volunteers in their damaged communities for the first time, as well as all the diverse students who participated and the different organizations who supported us and made this unique project possible. The need is still great, so I hope people don't forget the needs of those communities in Tohoku and that both Japanese and international volunteers will continue to travel to the region in the future as long as needed. For the love of Tohoku, it is one of the best ways we can help.

For opportunities on volunteering for those in Japan, or to find out more about relief efforts on the ground, please contact Mr. Akira Uchimura, of the Nikkei Youth Network at the link below:

http://nikkeiyouth.com/2011/05/19/isvolunteers2/

Note: You don't necessarily have to be a student, or bilingual, in order to volunteer. Many more trips are being planned. Please contact the Nikkei Youth Network for further information.

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「ハル・ノートと日米暫定協定～日米交渉とハル国務長官～（その二）」

九州大学　三輪 宗弘

暫定協定案が葬り去られた原因はどこにあるのだろうか。ワシントンDCでどのような動きがあったのか、資料で確認していこう。

スティムソン陸軍長官（H.L. Stimson）の日記によれば、11月25日9時30分にノックス海軍長官、ハル国務長官との定例会議で「ハルは3ヵ月の休戦案を提示した。彼は今日か明日のうちに日本側に提案するつもりであった。・・・中略・・・私には日本がそれを受諾する機会はほとんどないと思われた」と記録されている（Diaries of H.L. Stimson, Reel 7, Vol.36、実松譲編『現代史資料　34　太平洋戦争1』（みすず書房、昭和43年）14～15頁の訳）。11月25日にハルはイギリス大使（デスク日誌では10：30）、オランダ公使（デスク日記に時刻など記載なし）、中国大使（デスク日誌ではハルのアパートで20：00）の順で面会した。イギリス・ハリファックス大使との会談で、ハル国務長官は、暫定協定案は中国にとっても有益であるという考え方を示した。当時国務省に勤務していたH.ファイス『太平洋戦争への道』（The Road to Pearl Harbor）によれば、引き続きオランダ公使ラウドンが来て、暫定協定案に賛成であるが、石油輸出量は制限されるべきであるという見解を伝え、中国大使胡適は蒋介石の意見を伝えた、と記述されている。

スターク（H.R. Stark）海軍作戦部長は真珠湾攻撃査問委員会で「11月25日だったか、26日だったか思い出せない」と振り返った後、以下の骨子の証言を行なった（U.S. Congress Joint Committee on the Investigation of the Pearl Harbor Attack “Pearl Harbor Attack Hearings before the Joint Committee on the Investigation of the Pearl Harbor”,United State GPO,Washington:1946以下Pearl Harbor Attackと略記 ,Part5, p.2148.同じ記述がp.2329）。

「蒋介石のメッセージ、それをばらまいたことはハルを大いに悩ました。暫定協定案を廃棄させたのではなかろうか。その時はじめてハルは日本との外交交渉で問題解決はできないと言明した」

スターク海軍作戦部長の証言を総合すれば、以下のようになる（Pearl Harbor Attack, Part5, pp.2326-27. p.2331）。

11月25日に暫定協定案を破棄することを考え始め、26日に破棄の決意を固めた。11月25日の軍事委員会とは別にハルと会談した折、ハルが暫定協定案に対する胸中を披れきしたことを鮮明に覚えている。25日の軍事委員会で何を言ったか思い出せないが、蒋介石のメッセージでハルの胸中は燃えていたのではなかろうかと推察する。蒋介石のメッセージはハルにだけ送られたのではなく、国会議員にも送られた。鮮明に残っていることは、中国はハルを支持すべきである、中国のためにやっているのに理解していないと語ったことである。ワシントンではハルが宥和に走っているという批判があり、そのことをよく知っている。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

スタークはH.E. キンメル(Kimmel)大将に宛てた11月25日付け書簡の中で、「ハルとの長時間の話をした後で、事態が重大な局面にさしかかっているというメッセージを1日か2日前に送った」と記し「本日の会議で、ハルは大統領と同じく、日本の奇襲攻撃を再び持ち出した」との趣旨を送っている。11月24日のハルとの私的会話の直後に、スタークは一回目の戦争警告（War Warning）を米海軍の各基地（当然ハワイにも）に出したこともわかる。スタークのキンメル宛書簡からわかることは、スタークは11月24日と25日連日、ハルから直接、日米交渉の前途に対する厳しい状況を聞いたということである。ハルが本音で話せる一人がスタークであったのだろう。

スティムソンは有名な11月26日の日記の中で以下のように記されている（Diaries of Henry Lewis Stimson, Roll 7、『現代史資料 34 太平洋戦争1』15～16頁の訳）。

「ハルは私を今朝電話口に呼び出して、昨日ノックスや私が日本のことに対して言及したあの提案をすべてご破算にし、しかも、そのほかには提議することは何もないと通告する決意を固めた、と述べた。ハルがその案を中国にみせると、中国はその提案に反対した。・・・（中略）・・・蒋介石は特別メッセージを送り、中国ではその提案はおそろしく印象が悪く、その措置をとることは中国の士気を挫き、蒋介石の敵である日本がそれを使うことになるという苦情を訴えた。宋子文が私のもとへ手紙を寄せ、私に面会を求めてきた。そこで、私は今朝ハルを電話で呼び出しその旨を伝え、この問題について宋子文は私に何を求めているかを尋ねた」

日時が前後するが、陸軍長官スティムソンに米陸軍GⅡから「日本軍が南に向かっている」という情報が11月25日の午後に入る。すぐさまスティムソンはハルに電話を入れ、大統領にもGⅡの情報を伝達した。これがローズベルトを怒らせることになったことになったようだ（Diaries of Henry Lewis Stimson, Roll 7）。海軍作戦部長のスタークは米陸軍GⅡの情報について何も証言していないので、日本軍南下の情報については何も知らされていなかったのであろう。

戦後東京新聞の坂井特派員が1956年7月28日にホーンベック（元国務省極東担当顧問）の自宅でインタビューしたところ「25日の午後に暫定協定案をとらないことを決意した」、「ハル長官の決定には26日の朝ルーズベルトが同意した」とホーンベックは語っている（夕刊昭和31年7月29日）。スティムソンの日本軍の南進情報も暫定協定案破棄の大きな要因であろう。

当時海軍戦争計画部長Chief of the War Plan Sectionであった R.K.ターナー（Richard K. Turner）大将の査問委員会における証言によれば、11月26日午前10時30分頃に国務省担当の連絡官であるシュアイアマン（R.E. Shuirman）大佐からターナー、スターク、インガソール（R.E. Ingersoll、海軍作戦部次長）に「ハルはこれ以上の交渉は無理である。事態は陸海軍の手中にある」「国務省はすでに暫定協定案を渡さないことに決した」という骨子の説明が行なわれた。この日米交渉の頓挫という情報を踏まえて、3人の米海軍首脳は陸軍と調整後、11月27日に再び「戦争警告」の電文を米陸海軍の各基地に発した（Pearl Harbor Attack, Part4, pp.1947-48.）スターク作戦部長は11月26日午後1時20分にハルから電話を受けている。ハルは午後5時に野村、来栖両大使に10か条からなるノート（所謂日本では悪名高い「ハル・ノート」）を手交した。スターク作戦部長は11月27日にハルから「日本との交渉は終わり、陸海軍の手中にある」と知らされた。同じ日の11月27日（11：05にハルから電話を入れる）に「暫定協定案を提示したのか、断念したのか」を電話で確認したスティムソン陸軍長官に「私はそれから手を引いた。いまやそれは君とノックスとの手中、つまり陸海軍の手中にある」と、ハルは話した（Pearl Harbor Attack, Part5, p.2124, pp.2322~2323.）。しかしハルは10か条提案の内容を陸海軍首脳には一言も漏らさず、スタークは日本大使館が東京に打電した外交電報の傍受「マジック」によって、11月28日にその全貌を知るのである。

国務省と海軍省の連絡官のシュアイアマン大佐（当時）が実際どのような報告を行ったのかに関

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

する資料は、管見の範囲では公開されていない。どのような情報が海軍省に送られていたのかに関する資料の発掘は、小生のワシントンDCでの大きな課題の一つである。シュアイアマンは諜報関係の仕事についていることも付言しておこう。日米関係に関する非公開資料であるが、ほとんど公開されているが、戦時中日本の国内にアメリカに情報提供者がいたと思われるが、これは依然として「謎」につつまれている。（次回に続く）

三輪宗弘プロフィール

九州大学　記録資料館　産業経済資料部門

東京工業大学高分子工学で有機化学や化学工業を学び、大学院では社会工学を専攻。以後、文系・理系の枠にとらわれない研究姿勢を貫いている。

徹底的な一次資料重視の研究スタイルで、インタビューも行うが、資料で裏付けを取れないものは論文に使用しない。先行研究や回想録も一次資料と照らし合わせて、評価する姿勢を崩さない。

日本の文書館はもちろんのこと、海外の米国国立公文書館、英国国立公文書館、米国議会図書館、英国国立公文書館、FDローズベルト大統領図書館、スタンフォード大学フーバーアーカイブなどのアーカイブや図書館で一次資料を探し、それに基づき論文や著書を書く。

著書に『太平洋戦争と石油—戦略物資の軍事と経済—』（日本経済評論社、2004年、オンデマンド版あり）

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「ポトマック河岸逍遥」（大空―前世紀の新ドメイン）

国防大学訪問研究員　萬浪（まんなみ） 学

今月も、ポトマック川と時代の流れを縦糸に、国防や軍事を横糸に、様々なトピックが織り込まれたお話を進めて参りたいと思います。今回は飛行機がお題です。

ライト兄弟の初飛行の記念碑（キティーホーク）
（本図下部から右上にかけて飛行した↑）

グライダーでも凧でも気球でもない、有人の動力飛行機が初めて空を飛んだのは、1903年、今から108年前、ノースカロライナ州の海岸近くのキティーホークの丘でのこと。

ウィルバー、オービルのライト兄弟の偉業です。

ここで、ポトマック川流域の出来事も探してみましょう。

少し後のこと、1908年、弟オービルが初めて飛行機を米軍（米陸軍）に飛ばせて見せたのが、DCの西、アーリントン墓地のさらに西隣のフォート・マイヤーズ。1909年、初めて米陸軍の航空部隊の基地が開設され、ライト兄弟製の飛行機が軍用機として空を飛んだのが、DC北郊メリーランド州カレッジ・パーク飛行場。

カレッジ・パークに、米軍の航空学校が設立されたのが1911年。丁度今年100周年になる出来事です。同じ年に、カレッジ・パークでは初めて飛行機からの爆弾投下の照準を合わせるテストが行われています（投下自体は、同年サンフランシスコでテスト）。

同年には米海軍も飛行機を購入しています。

では、日本ではどうでしょう。日本での飛行機の初飛行は1910年東京都代々木（当時の練兵場、現在は代々木公園など）で行われました。航空基地新編は、これも100年前の1911年、所沢飛行場（現在は所沢航空記念公園）でのこと。

カレッジ・パーク飛行場と記念碑（写真右下）

ライト兄弟のお話をもう少し進めてみましょう。ライト兄弟の初飛行は、飛行機に対する、今も続くアメリカ人の誇りとこだわりの根源のように思えます。

例えば、DCのスミソニアン航空宇宙博物館。広い館内にもかかわらず、窮屈そうに時代を象徴する多くの飛行機とロケットが並んでいます。その中で、ライト兄弟の飛行機だけは広い展示室をまるまる与えられ悠然と鎮座しています。余程尊重されているのでしょう。

ライト兄弟を見る目は、もう一つ、アメリカン・ドリームという点でしょう。アメリカの本屋で、子供用の伝記集をみると、歴代大統領やエジソンと並んで、ライト兄弟がよく出ているようです。日本の子供用伝記集でも、同じです。

ライト兄弟の成功は、家族の結束・信仰・地道な努力・幸運といったアメリカン・ドリーム的な諸要素を結集したもの。こうした背景が人気を保っている理由なのかもしれません。家族の結束では、「兄弟」での偉業。信仰の点では、清教徒の移民の子孫で、父親も牧師であり、その影響を受けていること。努力の点では、大学などの研究者ではなく、自転車屋からの転身し、兄弟自身が工夫しながら成功に至ったこと。幸運の面では、自転車屋であったことが、飛行機製造に必要な加工技術を身に着けさせ、また、軽量化・バランス重視など不可欠な要素も自転車と飛行機で近似していたことなど。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

飛行機の飛ぶ仕組みをごく簡単に説明すると船など他の動力付きの乗り物と比べ、複雑さが増しています。自動車や船は、2次元の平面を移動するので、前に進む力（エンジンと車輪やスクリュー）と正面左右の移動方向の制御（ハンドルや舵）だけで進みます。3次元を動く飛行機の場合、前に進む力（プロペラやジェットエンジン）に加えて、移動方向も三軸（進行方向に向かって、左右の向きのほか、上下の向きと、螺旋状に時計回りか反時計回りか）に増え、さらに、浮き上がる力（揚力）も考慮に入れなければいけません。制御方法やバランスのとり方など、多くの要素を組み合わせて完成させる必要がありました。100年ほどの科学の進歩は、大空を飛ぶことを夢見る人たちに様々なヒントを与えていましたが、ライト兄弟の手によってようやく一つの乗り物に組み上げられたといえましょう。

ライト兄弟の飛行機1903年型ライトフライヤー
（実物:スミソニアン博物館）

ライト兄弟が自転車屋を営む傍ら、飛行機の研究をしていたのは、オハイオ州デイトン。東海岸のキティーホークとは1000kmも離れています。キティーホークを選んだのは、海岸近くで常に強風が吹いており、飛行機の揚力を増す向かい風を得やすいからでした。今日の空港も風向きを考えて設置しますし、艦載機を発艦させるときの空母も向かい風に向かって全速力で航行します。飛行機を止まった状態から飛行させるのには向かい風は今も大事のようです。

なお、兄弟のこの大移動の結果か、現在のノースカロライナ州の車のナンバープレートには「First in Flight State」、オハイオ州のナンバープレートには「Birthplace of Aviation」と書かれることになり、お互いに張り合うことになってしまったようです。

ノースカロライナ州とオハイオ州のナンバープレート
（各上部）

今回の表題「新ドメイン」の説明に移りたいと思います。ドメインとは、軍事を含む活動のためのひとまとまりの領域のことを指し、インターネットの「ドメイン」名と同じ用法です。

このようなドメインとしては、地上(陸地)、水域(海上)、空域(大空)のほか、新ドメインとして近年指摘されているものとして、宇宙空間やサイバー空間があります。軍事的には、ほかの空間・領域と一線を画して、ある程度の活動が日常的になされ、その活動を守る必要性が出てきて初めて、「ドメイン」と認識されるもののようです。

宇宙空間については、近年、各国で、GPSや衛星放送などで日常活動との結びつきがますます強まり、軍事活動上も情報収集手段として不可欠なものとなってきています。その上、地上から人工衛星を破壊するASAT（対衛星兵器）まで出てきたことで、軍事戦略上、これを他の空間と区別された一つの空間として、その場所の安全を保障する必要性が認識されてきています。アメリカで、昨年大統領府が国家宇宙政策を、本年国防省が国家安全保障宇宙戦略を、策定・公表したのもその証左です。

また、サイバー空間は、コンピューターとインターネットの発達に伴い形成されてきたものですが、日常的なサイバー犯罪やサイバー戦争からの、様々な活動を守る必要性から、サイバー空間も軍事的な意味で一つの空間として認識され始めています。これも最近、大統領府がサイバー空間のための国際戦略を発表しています。

ドメインとしての空域に話を戻します。地上・陸地と水域・海上というドメインは、太古の昔からの

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

軍事上のドメインです。他方、空域・大空がドメインとして認識されたのは、ライト兄弟の初飛行から10年以上もたった、第1次世界大戦（1914～18年）の中頃からでしょうか。

同大戦当初、飛行機は、伝令（通信手段）や物見台（偵察や大砲の着弾観測の手段）として使われていました。

第1次世界大戦のうち、西部戦線・北フランスでの戦いは、いわゆる塹壕戦。英仏とドイツがスイスから大西洋までの延々数百kmにわたり並行して塹壕を掘り4年間対峙しました。塹壕線の敵方の状況を見るために飛行機が活躍します。そうすると、今度は、上空から互いに見られまいと飛行機に銃を積んで相手の偵察行為を阻止するようになり、さらには戦闘機同士の戦闘へと発展してしまいます。撃墜王（エース）の時代の始まりです。大戦後半には飛行機からの爆撃も始まります。これにて、情報収集のための偵察機と、飛行機と戦う戦闘機、地上を爆撃する爆撃機といった役割分担された飛行機からなる航空戦力＝空軍が成立することになります。最も「長い」伝統を誇るイギリス空軍が発足したのも1918年のことです(米空軍発足は1947年)。

このころに、陸上戦や海上戦とは別に、空域を制圧し、飛行機の航行の安全を確保することが（航空優勢の確保ともいいます）、軍事活動上必須になってきます。即ち、3つ目のドメインとしての空域も確立してきたといえましょう。

この100年ほどの間に、飛行機の発達は目覚ましく、飛行機の分類も、偵察機・戦闘機・爆撃機のみならず、人員・物資を迅速に輸送するための輸送機や、空中で多くの飛行機を指揮するための指揮管制機なども出てきて、多様化しています。

米空軍のエアショーでのヘリテージ・フライト（アンドリューズ空軍基地：70年前の飛行機P-51を現役のF-15（上）とA-10が挟む形で飛行）

孫子の兵法書に「およそ軍は高いところを好んで、下（低いところ）をにくむ」というくだりがあります。この文章は、兵隊はいつも山に登れと言っているわけでもなく、また、低いところでも塹壕や地下陣地など戦いに有利な場所はあります。開けた土地に、部隊を配備するなら、低いところより高いところの方がよいと教えているものと解釈できます。高いところは見晴らしが良く（情報収集がよくでき）、低いところからは移動も難しいのに対し、高い方からは駆け下りて戦うことが容易という利点を示したものでしょう。孫子の兵法は飛行機のない太古の昔の中国で成立したものですが、航空戦力も、これと同じ面があろうかと思います。つまり、飛行機には、情報収集が容易で、上空から地上を攻撃することができ、さらには、地上を移動するどの乗り物よりも速いという利点があります。

技術の進歩は、相互作用があるので、航空戦力による地上への攻勢が強まれば、防ごうとする作用も強まります。速くて居場所を把握しにくい飛行機を、遠くから発見し、確実に位置を把握できるように、第2次世界大戦頃からレーダーが発達してきます。また、地上から飛行機を攻撃する兵器も発達してきます。当初は、対空砲（空に向けて撃つ大砲）、更には、地対空ミサイル（砲と異なり、見付けた目標を目がけて飛ぶ）と発展してきます。地対空ミサイルは、一人で持ち歩ける携帯型も出てきます。1980年代のソ連のアフガン侵攻に対抗するためにアフガン人が使用したスティンガーミサイルがそれです。トム・ハンクス主演の映画「チャーリー・ウィスソンズ・ウォー」の主題でもあります。

飛行機の側も、ミサイルが狙っていることを探知したり、ミサイルを騙す物を搭載したり、と、対抗手段の対抗手段を工夫していきます。最新かつ高度な手段の一つがステルス機でしょう。現在実用化されているステルス機は米軍しか持っていませんが、ステルス機は目に見えないわけではなくて、レーダーで探知しにくいことが大きな特徴です。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

かくて、飛行機もこの100年加速度的に進歩してきました。他方で、ステルス機をはじめ、考慮すべき要素の多くなった飛行機の開発はますます難しくなり、昔のように半年や1年で新しい飛行機が登場することはなくなり、実用化までに10年以上かけるようになりました。

今や無人機の実用化も進む中、21世紀の飛行機は今後どうなるものでしょうか。一つだけ言えることは、人類にとっての大空の有用性は変わらないのでしょう。

米空軍のステルス爆撃機B-2
(空軍博物館展示品)

これまで4回にわたり連載してきました。1回目が統合運用などの話、2回目とペリー来航や咸臨丸を絡めながら日米関係の話、3回目が東海岸での陸戦を中心に南北戦争の話でした。4回目の今回は、陸・海・空というバランスで選んだわけではありませんが、飛行機の話をさせていただきました。

今後もご案内を続けたいところでしたが、当方の帰国準備もはじまり、ポトマック河畔の散策もこれにて終わりとさせていただきたく思います。わずか4回の連載ですが、どちらかと言えばとっつきにくい国防・軍事の世界を、DC近郊の記念碑・旧跡や日本とのかかわりを切り口になるべく読みやすく書かせていただいたつもりです。お楽しみいただけましたでしょうか。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「ワシントン　スポーツ三昧　その3：ランニング編（Part 1）」

インテレッセ　インターナショナル　渡邉 聖子

皆様の心温まるご支援のお陰で、遂に、3部作完結間近まで漕ぎ着けた。書く前からこれで終わるのかと思うと、最初は多少、無理矢理強引に頼まれて、お引き受けしたはずなのに、なんとなく寂しく・空しく・後ろ髪を引かれる思いがするのだから、不思議なものだ。

執筆を通して、またまた新しい知り合いが増えたのは思わぬ収穫だ。

スポーツ三昧を書きながら、これが“江戸っ子の血が流れている”ということかと始めて自覚し、自然とスポーツにのめり込んでしまう自分のDNAを、ピンセットで取り出して面と向かって問いかけ、確認したい誘惑に駆られている今の自分が、何となく恐ろしい。

番茶も出花の今から・・・年前の輝ける17歳だった11月のある日、高校から自宅に戻ってくると、台所で夕食を作っていた母が突然振り返り、何やら意味ありげにニヤっニヤっとしている。

一方、隣で父（今では何故か有名になった“カ”である）は、心持ち心配そうな表情・・・

はて、なんだろう？？？　　私、何かしたっけ？

“今週に限って、悪い点数の数学のテスト結果は隠してないはず！！！！！”

“友達と流行りの、変な集団写真でも撮ったっけ？？？？？”

こういう時の私の頭の回転は、頗る速い。

食卓の上には、およそ1ヶ月前に父と一緒に走った初めての“江戸川区10キロマラソン大会”のプログラムと、その横に書きなれた文字の手紙が置いてあった。

母（名前を“京子”という）が、「この手紙、あなた宛なのよ」と、わざとよそよそしく言う。

そして、何故か既に封が切られた（母も相当中身が気になったのだろう）手紙を恐る恐る手に取った。

便せんに、きれいな手書きの字で、時候の挨拶から始まり、自己紹介に続き、最後9キロ時点でカモメ大橋を走る私の姿（歯を食いしばって、ひどい表情をしていたに違いない！）が、その人の目を惹いたとあるではないか！！！何これ！！！俗にいう、ラブレター！？！？！？

さらに読み続けると、その大会でまぐれにも一般女子の部で入賞した為、私が表彰式でトロフィーをもらうところを、遠くからじっと見つめていたとある！！！！ひょえ～～～～～～！これじゃ、ひょっとして噂のストーカー！？！？！？

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

なんとご丁寧に、ご本人の写真も同封されているではないか。パンチパーマのヒゲもじゃで、つっかけを履いて仁王立ちの写真・・・・どうサバよんでも、私より10歳以上年上のおっさん！！！（冷静に考えると、17歳に10歳足してもわずか27歳なのだが。）

小学校から女子校通いで、そういう浮いた話には、とんとご縁がなかった私。デズニー（ディズニーではない）のシンデレラ物語のように夢描いていた（実は今でも密かに夢見ている）“ラブレター”の素敵な妄想が、瞬く間に散り去ったのが、残念ながら当にこの瞬間だった。

しかも、超ド過保護の両親が、きちんと先に手紙を開けて、隅から隅まで読んでいたので、秘密めいたドキ・ドキ・わく・わく・キュン・キュン感の欠片（かけら）も無い。

さらに悪いことには、親戚中にその話が瞬く間に広まり、（シンデレラ物語にも良く登場する）年上の意地悪従姉達には、「よりにもよってこの写真！クスクス・・・　普通、気合入れたラブレターに、つっかけ履いた写真つけて送ってくるかねぇ～　ゲラゲラ・・・。いや～、聖子はやっぱモテるワ～（大爆笑）」と散々からかわれる始末。

一日も早く、皆の記憶から忘れ去られることのみを願っていた私の期待＋願望とは裏腹に、驚く事なかれ、それから僅か2週間後、更にもう1通が届いたのにはたまげた。

勿論1通目と同様、両親が先に開封し、そしてまたも親戚中に閲覧に回った。

遂には、勇気あるそのヒゲもじゃおじさん（冷静に計算したら27歳なのにである）は、自宅に電話してきた！母がここぞとばかりに

「うちの娘は、まだ高校生ですけど、何か御用ですこと？こういうことは、お止めになって下さいませ」とピッシャリ伝えると、相手は相当怯（ひる）み、驚いた様子だったとのこと（まだピチピチの高校生だって言うのに、一体何歳のオバはんと勘違いされたのだろうか？全くし失礼してしまうわっ！）。

こうして、手紙と電話を宛てられた張本人の私が何のアクションを取ることもなく、反省するはずもなく、憧れのシンデレラにもなれず、ストーカー犯を警察に突き出すわけでも無く、ただただ恥ずかしい思いをしただけで、この“ラブレター事件”はようやく一件落着した（今でも暇な時に、あの時のつっかけ履きパンチパーマが脳裏をよぎるのは一種のサイコ現象なのだろうか・・・クワバラクワバラ）。

同じ年（まだ17歳だ）の12月に入ると、今度はその縁起でもない江戸川区大会のスポーツ担当理事殿（ワシントン日本商工会ではないので念の為）から突然電話があった。

よくよく聞いてみると、翌年の3月に江戸川区の姉妹都市である伊豆大島で開催される、10キロ大会に選手としてご招待したいとのことだから、腰が抜ける程びっくりした。どうやら上位入賞者が全員辞退したので、6位だった私にまでお鉢が回って来た様子。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

どうしよう！これは困ったゾ～　。

私はもともと、スキーとテニス（ここまでは既に話した）のふた筋なので、10キロ大会は遊び気分での初挑戦。ランニング専用腕時計なんてものはおろか、他のランナーのような格好いいランニングウエアも持ってない。持ち合わせの真っ白のテニスウエアにランニングシューズという出で立ち。

正直その時、ランニングそのものには、全く興味が無かった。ただ大好きな父（力という・・・そろそろ皆覚えたか）と一緒に走りたかっただけなのだ。もちろんタイムの目標などなかったし、練習と言っても週1回程度、テニスの合間で気が向いた時に、近所の江戸川の堤防沿いを、ちょっと走っていただけだった。

きっと、この愛する父と一緒なら、それが園芸でも、日曜大工でも、落語でも、浪曲でも、相撲でも、演歌でも、競馬でも、マージャンでも・・・・な～んでも良かったのかもしれない。

私一人では、走るペースもつかめないというド素人、10キロを完走できる自信もなかった。てなことで、せっかくの一生一度の、特別ご招待選手になれそうだったのに「すみませんが、父と一緒でないと10キロも走れません。。。」と断ってしまった。

そんな調子だったので、10ウン年経った今でも、ワシントンDCに所変わっても、ランニングへの思い入れと情熱の薄さは変わっていなかった。確かに走った後の達成感は味わえても、走っている途中、ランナーズ・ハイなど感じられた試しがない。あと15分くらいだったら、このままなんとか走り続けられるかなあ、と思うことはあっても、楽しくて楽しくて気分最高！これだからやめられない！などとは、不幸にも一度も味わったことがない。

むしろ、走り終わったら、あれ（たこ焼き、肉まん、餃子、焼き鳥、カレーライス・・・）食べよう、これ（ビール、焼酎、ラムネ、ファンタオレンジ・・・）飲もう、ここ（内緒・・・）に行って、誰（これはもっと内緒・・・）と遊ぼう、などと不埒なことを考えている、ランナーの端くれにも置けない、超不謹慎ダメ・ランナーなのである。

TO BE CONTINUED....

次回は本当の3部作完結編で、ランナーの端くれにも置けない超不謹慎ダメ・ランナーの筆者が憧れのボストン・マラソンを目指す（？）までの話しです。ご期待下さい。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン月報（第77回）
「特許損害賠償の評決を抜本的是正する歴史的判決」

米国弁護士　服部 健一

米国特許訴訟における陪審員の損害賠償評決を抜本的に是正するユニロック判決が下された。このユニロック判決が何故画期的かを説明する前に、陪審員訴訟の実態を説明しよう。

米国における特許訴訟の数は2009年で2,295件である。これは日本における特許訴訟の数の約10倍と言われており、米国がいかに訴訟大国であるかがわかる。米国訴訟は3年位かかるが、その大部分の期間はディスカバリーといって、弁護士を中心にして互いに証拠収集を行う。この間は陪審員は関係ないどころか判事さえもたまに訴訟の様子を見たり、問題点を裁決したりするだけでほとんど関与しない。裁判所で行ういわゆる公判は最後の2、3週間のみである。しかし、ディスカバリーが進み、証拠が集まってきて原告も被告も勝敗が微妙になってくるとコストがかかる事から和解する事が多い。ディスカバリーの途中で和解になる数は、2,032件（89%）もある。即ち、訴訟のほとんどは和解で終わっているのだ。和解に至らない263件（11%）が本格的訴訟に進む事になる。

それでも、その間一方の当事者の証拠が圧倒的に有利であれば最後の公判を行わず判事にサマリージャッジメントという略式判決で決着させる事も出来る。この数はディスカバリーが更に進んだ263件の内の182件（69%）であり、陪審員が入る公判に至らないで決着する。ここまでの終了件数は2,214件であり、これは総訴訟件数の2,295件中の96%にさえなる。つまり、2,295件の内判事と、陪審員が法廷にいる公判に行くのは81件の4%にしか過ぎない。そしてこの81件の内判事のみによる裁判の数は18件で、陪審員が評決しなければならない訴訟は（いずれの当事者が陪審員公判を要求すれば陪審員裁判となる）63件で2.7%にしか過ぎない。

逆に言うとここまでもつれる事件は原告（特許権者）か被告のいずれが勝訴してもおかしくない事件、つまり特許有効性や侵害は、どちらとも言える事件でそれほど微妙な場合である。その意味では陪審員の特許有効性そして侵害の評決は大きな問題ではないのかもしれないが、問題は損害賠償の額だけは常に大きな問題になっている。

たとえば、自動車そのものに関わる基本特許であれば自動車の価格に基づいて平均的ローヤルティで計算すればよいから比較的問題は少ない。しかし、特許がハイブリッドエンジンのような部品特許である場合、損害賠償をエンジンの値段（部品の値段）で計算すべきか、あるいは車全体の価格（製品の値段、エンタイア・マーケット価値という）で計算すべきかということが常に問題になる。

もし、消費者が車をハイブリッドエンジンの部品特許の優秀さ、ガソリン消費の少なさという点に魅力を感じて車という製品を購入した場合は、車の価格（製品価格、エンタイア・マーケット価値）で計算すべきかもしれない。反対にたとえハイブリッド特許が良いとしても、やはり車のスタイルや形の好みの影響が強い場合は、車の価格で計算する事は不当でエンジンの価格を基にして計算すべきであろう。今日の特許のほとんどは、こうした部品的特許が多いので、本来は超多額の損害賠

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

償になるべきではないのだ。

しかし、この点は陪審員は特許弁護士や専門家証人の証言によって左右され易いので問題になるのである。マイクロソフトのウィンドウズやオフィスのソフトはこの問題の恰好のターゲットになってきた。表1は2005年～2011年の損害賠償評決額のベスト10（ワースト10？）である。これを見て明らかなように評決は160億円から1,338億円までになっている。日本の損害賠償の1億～4億円に比べるといかに米国が特許訴訟大国であるかが分かる。

次の特徴点は損害賠償が高い分野はバイオ（含薬品）と情報（含コンピューター）のみに偏っている点である。この内バイオは技術開発に天文学的な費用がかかるので特許の価値が高いので損害賠償が高いのは当然である。情報はコンピューターソフトウェアのように販売数が多く、販売高も高いので高くなる。

出典：http://en.wikipedia.org/wiki/Microsoft

そして、情報分野で驚く事はマイクロソフトがベスト10の4つも入っていることである。これは上述したように同社のウィンドウズやオフィスのソフトがターゲットになっているからである。ここで問題になる事はマイクロソフトが侵害した特許はウィンドウズのほんの一部の技術に過ぎないことが多い事である。

310億円の損害賠償評決が下されたユニロックの特許はウィンドウズ（製品）そのものをカバーする特許ではなく、単なるセキュリティシステムに関わる特許（部品特許）であった。ウィンドウズを購入したユーザーはパソコンに入れるとそれだけで直ちにウィンドウズが起動するわけではない、マイクロソフトはウィンドウズがコピーされないようにセキュリティシステムでロックしており、これをユーザーがウィンドウズに報告するとマイクロソフトはロックを解除してウィンドウズが起動して使われるようにしている。

しかし、ユーザーはウィンドウズのセキュリティシステムが良いから購入するのではなく、あくまでウィンドウズ全体の機能の良さで購入している。つまり、ウィンドウズのセキュリティシステムはウィンドウズが売れている要因ではない。

こういった場合、損害賠償の計算の仕方は、そのセキュリティシステムを開発するまでの価値（部品価格）程度である事が普通で、ウィンドウズの販売高や販売数が（エンタイア・マーケット価値）には直接関係ないものである。

マイクロソフトはそのためセキュリティシステムの価値はせいぜい6億円であると主張した。しかし、ユニロックはウィンドウズごとのセキュリティシステムの単価に基づくべきであると主張し、それによると1つは最低でも10ドルで（約800円）、それに長年用いられている25%ルール（リーゾナブルなローヤルティは特許侵害品の価値の25%という理論）を適用すると1つに付き2.5ドルとなり、ウィンドウズの販売数2億3,000万個（エンタイア・マーケット価値）をかけると約470億円の損害賠償の額になると主張した。

そして470億円がリーゾナブルかチェックする為にウィンドウズの総販売額1兆6,000億円（エンタイアマーケット価値）に比べると2.9%のローヤルティとなり、普通ソフトウェアのローヤルティは10%前後なので470億円はまともな額であると主張した（このチェックの仕方は明らかにウィンドウズの総販売数や総販売額、つまりエンタイア・マーケット価値を参考にした計算の仕方である）。

その上、マイクロソフトのNapper専門家証人が主張する約6億円がいかに少ない額であるかを

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

示す為に陪審員の前で以下のような反対尋問を行った。

Q: 特許侵害となるMicrosoft社の製品の総販売額は、約200億ドル（約1兆6,600億円）であることをご存知ですか？

A: それがユニロック社の専門家証人のGemini博士の計算した額であり、エンタイア・マーケット価値です。

Q: あなたの計算による一括金の支払いでは、700万ドル（約6億円）ですね？

A: はい。

Q: そうすると、ロイヤルティーは0.000035%ということになってしまいますね？

A: もし、誤ってエンタイア・マーケット価値を考慮するとそうなります。

Q: Uniloc社が特許を有していたのはご存知ですか？

A: はい。

Q: Microsoft社は、市場に出して侵害しましたね？

A: そのことを前提とした計算です。

Q: 仮にあなたの一括金の理論が正しいとしても、Microsoft社は特許侵害を行い、200億ドル(約1兆6,600億円)の販売額を得ましたね？

A: エンタイア・マーケット価値から言えばそうです。

Q: Microsoft社は特許を侵害して販売額の99.9999%を得て、特許権者は0.00003%しか得られないという事になりますね？

A: エンタイア・マーケット価値から見ればそうです。

Q: あなたはそれでもリーズナブルだと思いますか？

A: 思います。

こうして損害賠償はマイクロソフトが主張する6億円かユニロックが主張する470億円か、またその間の何らかの額という事になった。陪審員が評決の討議に入る前に判事は、損害賠償の額を決定する時にウィンドウズの販売総数の2億3,000万個や販売総額の1兆6,000億円を参考にしてはならないと指示した。

しかし、陪審員は損害賠償を310億円と評決した。この評決額は6億円よりはるかに高く、470億円に近い額なので、総販売数や総販売額に影響された値である事は明らかであった。

普通、陪審員の評決額310億円を支持する実質的証拠（例えばユニロックの専門家証人が計算した470億円という証拠を減額した値）があると判事は抱束され、評決を棄却したり、更に減額することは出来ない。しかし、ここ何年か陪審員の損害賠償は裁判でも、特許法改革でも大きな問題となっていたのでマイクロソフトは公判をやり直す事を要求し、地裁判事もそれに同意した。

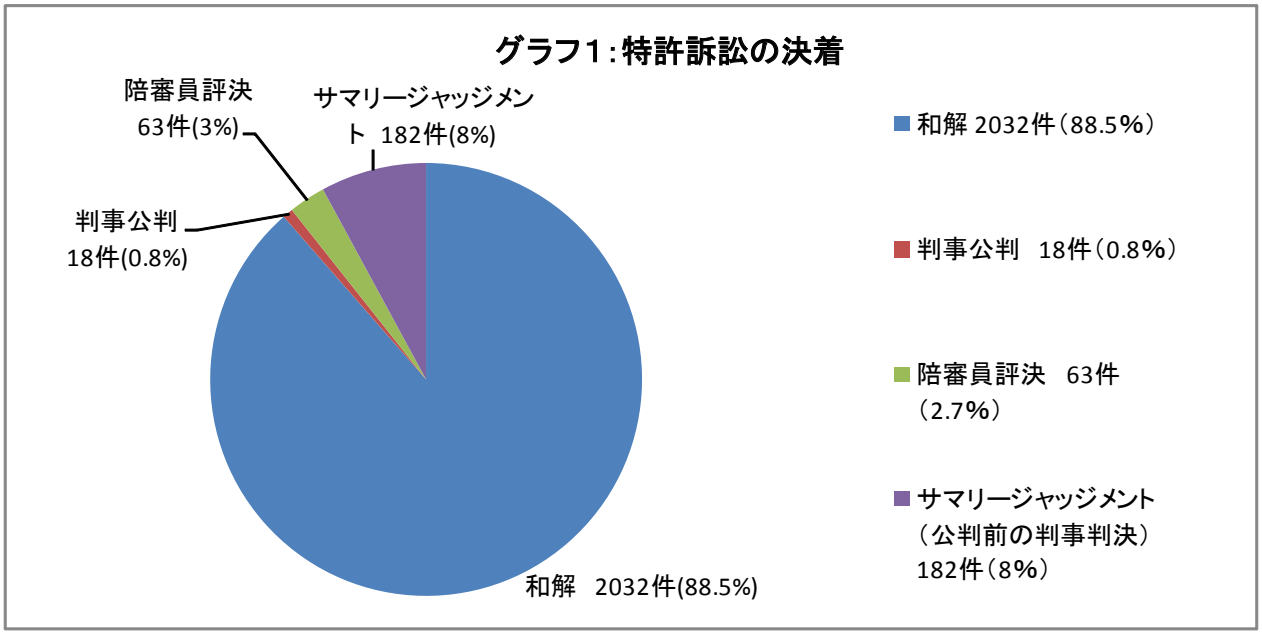
ユニロックは評決を支持する証拠はあるので、310億円は正しいとCAFC（高裁）に控訴した。するとCAFCは驚くべき事にまず25%ルールを破棄した上に、総販売数や額に影響された可能性が高い事から310億円の評決も棄却し、新しい陪審員で損害賠償の公判をやり直すように指示したのである。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

この新しい公判ではウィンドウズの総販売数や総販売高を証拠として用いたり、反対尋問で用いたりする事は一切許されないと考えられる。そうすれば陪審員は6億円前後の評決しか出されない事になる。

このCAFC判決は全米で大波紋を呼び、マイクロソフトや情報産業を「これで情報産業における損害賠償がまともになる」と両手を挙げて喜んでいる。

陪審員裁判は証拠範囲さえ制限していればその範囲内で評決を下すことになるので評決もまともになる事は間違いないといわれている。そのため、これまでの6年間も揉めてきた米国特許法改革案からは損害賠償の改正は削除され、先願主義/異議申立てが中心となった為上院案は95対5という圧倒的多数で可決されてしまった。ユニロック判決がいかに大きな良い影響を米国特許業界のもたらしているかを示している。



特許訴訟件数2,295件 (2009年)
出所: ヒューストン大学ローセンター 2011年

表1: 損害賠償評決ベスト10 (2005～2011年)

	原告	被告	特許技術	評決額
1	セントコール	アボット･ラボラトリーズ	バイオ	1,338億円
2	アルカテル･ルーセント	マイクロソフト	情報	1,200億円
3	ミラー･ワールド	アップル	情報	500億円
4	サフラン	ボストン･サイエンティフィック	バイオ	345億円
5	ユニロック	マイクロソフト	情報	310億円
6	アルカテル･ルーセント	マイクロソフト	情報	294億円
7	ハイニックス	ランバス	情報	246億円
8	メドトロニック	ボストン･サイエンティフィック	バイオ	200億円
9	デ･ピュイ	メドトロニック･ソファモア	バイオ	181億円
10	i4i	マイクロソフト	情報	160億円

出所: ヒューストン大学ローセンター 2011年
注: 日本の同期間における損害賠償は4億円が最大

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントンソーシャルライフ

Shigeko Bork mu project

シゲコ ボーク

【askshigeko.com】

今年もソーシャルシーズンの終わりが近づいてきましたが、ワシントンDCを縦横無尽に駆け回っているうちに、あっという間に13年が経とうとしています。その間海外起業をして女性起業家となったり、バイリンガル子育てや国際結婚、そして数々のチャリティー活動を通じて、多くの方々との素晴らしい出会いがありました。そんな多くのフレンドシップと家族のサポートのおかげで、自分らしく、ハッピーなアメリカ生活を少しずつ築いていけたのだと思います。

移住当時は生活全般に渡るこまごまとした手続きや、引越し、ビザ、健康保険、車の免許に子供の学校、病院など本当に大変だと思いましたが、でももっと大変だなあと思ったことがあります。それはアメリカに来た理由は何であれ、やっぱりこのアメリカという国を知り、ここに自分の場所を見つけて自分らしく生きていくことだったと思います。

慣れないうちは言葉の壁がありますが、でもそれ以上に言葉を超えたどこかで迷子になってしまったような気がしたものです。まさしく「Lost in Translation」という感じですね。ビザとか病院などに関しては様々なガイドブックもでまわっているのですが、「Lost In Translation」脱出に関しては資料は皆無のようでした。

だからみんながいろんなアメリカ生活に関する疑問や海外生活に役立つ最新情報、そして多くの発見をシェアして、私たちのアメリカ生活がもっとハッピーでもっと元気になる空間があればいいなあと思って、今度アメリカ生活に関する情報サイトaskshigeko.comをスタートすることになりました。

みなさん、いつでもお好きなときに、ご自由にaskshigeko.comに遊びにいらしてくださいね。

http://askshigeko.com 2011年6月4日スタート

【ソーシャルシーズンの締めくくり】

今月はウェッブサイトの最終調整やサイトにのせるビデオ撮影があったり、それから来年の展覧会の打ち合わせでとっても忙しかったのですが、でもイベントもすごかったです。やっぱりシーズン最後ということでしょうねえ。

先月チラッとお話したアメリカ最古のジョージタウンハウスツアーですが、冗談だと思っていたら本当に1,000人近くの方々が我が家を訪れました。ガイドの方々はずっと立ちっぱなしで、1,000人に「ホープダイヤモンドの家」の説明をした訳ですよね。本当にお世話になりました。

ハウスツアーが無事終わったかと思ったら娘のサバイバル修学旅行がやってきて、その荷造りにまたまた大わらわ。電気も水道もない無人島で2泊3日するので、荷物もそれなりに大きくなって、でもアメリカの修学旅行らしくてよい経験ですよね。

「すごく楽しかった」といって娘が帰ってきたかと思ったら、その週末は夫の家族がグリニッジから

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

遊びに来て、またまた大忙し。でもこの週末はワシントン大聖堂でのフラワーマートやヨーロッパ系の大使館が門戸を広げたオープンハウスがあって、久しぶりにDC観光ができてラッキーでした。なかでも一番よかったのはチェコ共和国。昨年のニューヨークタイムス紙で「一番コレクタブルな車」に選ばれた幻のTatra車が展示してあったからです。アンティークカーなのに車体がとってもフューチャリスティックで、不思議な車でした。

そして5月12日はワシントンバレエのガラ。今年のテーマはRock&Rollということで、私も髪をアップにしてミニのドレスで夜遅くまで踊ってきました。会場はロシア大使館でしたが、ここってなんとなく要塞っぽくて怖いイメージがあったのですが、みんなとってもフレンドリーで高校生バンドが演奏してたりして、ちょっと学園祭みたいでしたよ。

その週末は商工会初のファミリーイベントに家族で参加。いろいろな方に出会えて、おすしもおにぎりもおいしくてとっても楽しいイベントでした。また機会があったら行きたいです。

楽しい週末の後はもちろん仕事が待っています。次の週は来年の展覧会のミーティングに忙殺され、その合間をぬって私が理事を勤めるTransformerのオープニング「This is Hawaii」に参加。今回はアメリカインディアン美術館とのコラボレーションでオープニングの場所は美術館でしたが、閉館後に行われたパーティーで出口がわからず、帰ろうとしても巨大なビルの中で迷子になってしまい、なかなか帰ることができませんでした。展覧会は7月4日まで。www.nmai.si.edu

そして5月最後の週、やっとここまでたどり着いたという感じですが、今週は婦人会のランチやオーストリア大使館やルクセンブルク大使館などでのパーティーが立て込んでいました。

先週末はメモリアルデイの週末でした。早いですねえ。今年はサマーハウスがあるアナポリスではなく夫が秘密のバケーションを企てくれました。その詳細は来月号でリポートしますね。それから週明けはNYへ行くので、Metのアレキサンダー・マクウィーン展覧会からのリポートもお見逃しなく。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

サタデー・ナイト・ライブのウィル・ファレルがシリアスな役に挑戦
映画『Everything Must Go』

米国弁護士　長野 さわか

【あらすじ】

ニック・ヘルセイ（ウィル・ファレル）はトップ・セールスマン（であった）。だが、突然16年も勤め上げた会社から突然の解雇を言い渡される。まさに人生最悪の日、そして最悪の展開は、それで終わりでなかった。帰宅途中にヤケ酒を買い、自宅に戻ると…自分の所持品全てが前庭に放り出されている。家の鍵も変えられているので、中に入れない。解雇された挙句、妻にも愛想をつかれ、ニックは全てを失ったかのように思えた…。そして、前庭で野外生活（自宅の庭でホームレス生活?!）を始めることに…。

クレジットカード、キャッシュカード、おまけに自家用車まで失ったニックが始めたのは「ヤード・セール」。セールスマンの経験を駆使して持ち物を二束三文で売りさばいてしまおう、というもの。果たして、完売した暁には人生再起のきっかけを見出すことができるのだろうか？題名どおり、「全てを手放します」と宣言した彼は本当に全てを失ったのであろうか…？

ウィル・ファレルといえば、Saturday Night Live (SNL)のコメディアンの印象が強く、今までは彼の出演するドタバタ系コメディ映画には殆ど興味がなかった。だが、今回はシリアスな役に挑戦。フツーの中年男が、人生最悪の日を、持ち前の暖かさで、明るく、ふてくされる姿を見事に演じている。

【全てを失うこと】

東日本大震災から3ヶ月が経とうとしている。あの3月11日の出来事は、多くの人の心に、程度の差こそあれ、傷を残している。肉親や我が子、兄弟、親類や友人など、大切な人を亡くした方が沢山おられる。一生懸命働いて築いた家や財産を失った方、仕事を失った方もおられる。どうして自分にこんなことが起こってしまったのか、つらくて、悲しい思いをされている方が沢山おられる。遠い異国に住んでいても、報道で、また人づてに、色々伺うことがあり、心を痛める。

辛い…。

でも、自分よりもっと辛い人がいる。頑張らないと。我慢しないと。勤勉な日本人は「頑張らねば」と自分に言い聞かせてしまう。辛いとは言ってはいけない。もっと大変な方に申し訳ない。確かに日本人の美徳ではある。

だが、辛い時は「辛い」って言っていいのではないか。悲しい時は「悲しい」って泣いていいんではないか。どれほど理性の力で感情を封印し、我慢し、ごまかしても、辛い感情は心の奥底でモヤモヤと疼いているのではないだろうか。無視したり抑圧を続けると、いつか爆発する。

辛い気持ち、悲しい気持ちが湧き上がってきたら、認めてあげよう。受け入れてあげよう。「そうだよね。辛かったよね。悲しかったよね。」と。優しく自分の感情を認め、受け止めてあげよう。時間はかかるかもしれないが、辛い気持ちは雲のようにゆるりと流れていくだろう。そして辛い気持ちが流れていった後には、自然と前を向いて歩いていこうと思えるようになると思う。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

【ヤード・セール完売そして…】

映画中、ニックが所持品を全て売りさばいた後、「あなたはそれでも全てを失ってはいません」というメッセージを受け取る。たしかに、まだ「あなた自身」がいる。あなたの肉体があり、五感があり、未来もある。

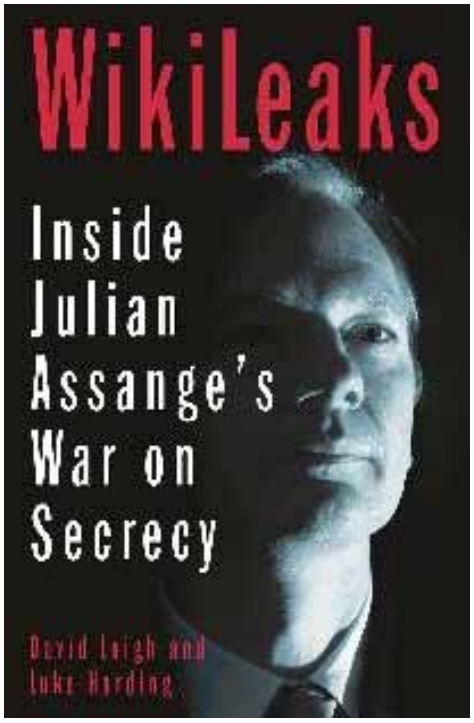
被災された方がまた幸せと感じることができますように！そして一日も早く、被災地が復興しますように！

イラスト：マクファーランド・ケネスくん　9歳

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の書評
「Wikileaks」
David Leigh & Luke Harding

ポトマック・アソシエーツ　池原 麻里子



『Wikileaks』
David Leigh & Luke Harding
（Guardian社）

2010年11月28日、ウィキリークスが米国務省の外交機密文書を公開し、世界的なセンセーションを巻き起こした。180カ国にある280の米大使館と領事館からの251,287件の文書のうち、219件が、エル・パイス、ル・モンド、デア・シュピーゲル、ガーディアン、ニューヨーク・タイムズによって同時に公開されたこの事件は「ケーブルゲート」ともよばれている。その後も各紙やウィキリークスは外交文書の公開を続けている。

文書の種類はUnclassifiedが13万件、Confidentialが10万件、Secretは15,000件で、Top Secret文書は含まれていない。これはウィキリークスに同情報を提供したイラクに駐屯のブラッドリー・マニングという情報下士官（23歳）がアクセスできた国防省のSIPRNetに、国務省が極秘文書の共有については拒否したからである。

文書が作成された国別に見ると、日本からの公電は5,697本と本省、アンカラ、バグダッド発に次いで多い。そのうち1,660件が機密文書だ。一方、イスラエル発のものは少ない。極秘文書扱いになっているか、大使館を経由しない接触が多いと思われる。

日本関連として2011年2月半ば時点で、公開された東京発の公電は9件、それ以外に日本が言及されているものが11本。トピックは捕鯨問題、北朝鮮問題などだ。東京発が多いのは、恐らく鳩山政権時代の普天間基地移転問題に関する報告が頻繁だったのではないかと思われる。丁度、鳩山前首相の「方便」発言が問題になっているが、今後、公電が公開されたら民主党政権の命取りになるのではないだろうか。

さて、このウィキリークスの設立者ジュリアン・アサンジの人物像、彼がガーディアンを始めとするメディアに情報を提供するようになったいきさつ、そしてガーディアンがその他のメディアと協力するようになった経緯、情報の確認・分析、情報を公開したインパクトなどをガーディアンの目を通して描いたのが本書である。副題は「ジュリアン・アサンジの機密との戦いの内情」。

ここに描かれているアサンジは、秘密主義で批判を許さない独裁者、社会順応性がないハッカー、そもそも入手した外交文書について、例えば米政府への協力者の実名を公表して、その人物に被害が及んでも、それは自業自得という考えの持ち主だ。ガーディアンとニューヨーク・タイムズは、都合次第で、リーク情報源、または仲介者、出版社という態度をとるアサンジにはてこずった。ニューヨーク・タイムズが、アサンジに好意的でない記事を書いたことから、彼は米国メディアとしてワシントン・ポストなどとの協力を一時は検討した。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ガーディアン、ニューヨーク・タイムズ、シュピーゲルは多数の気鋭外交記者たちに数ヶ月かけて大量の文書を分析させ、記事を書かせた。公開する2週間前になってアサンジの要請で仲間入りしたエル・パイスとル・モンドなどは、時間との戦いとなった。同時リリースの予定が、ミスで店頭に並んだシュピーゲルの内容がツイッターで発信されるという事件も起きた。

2010年1月にインターネット・フリーダムについてスピーチしたヒラリー・クリントン国務長官が、それから1年もしないうちに、今度はインターネットを利用した機密文書開示の対応に迫られることになったのは皮肉なことである。「ケーブルゲート」前後、国務長官をはじめとする高官は各国に対して謝罪行脚することになった。滑稽なことに、2010年5月末にマニングが逮捕されるまでの情報がリークされていたと思い込んだ国務省は、5月誕生のデイヴィッド・キャメロン政権を低く評価した駐英大使の公電に対して、首相に謝罪したのだ。しかし、後日、リークは2010年2月までと知るに至る。

さて、ケーブルゲートのインパクトだが、表向きには被害甚大という立場だが、実は米外交上、恒久的なダメージは起きていないというのが国務省の結論のようだ。また、アサンジの行為を有罪とする法的根拠もない。

（NEW LEADER 2011年2月号より転載）

Illustration by Emi Kikuchi

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

連載小説「ポトマックの煌めき」

～第五話　真実～

愛川 耀

～前回までのあらすじ～　法律事務所に勤める榊原叶子はジョージタウンで偶然出逢った福永健に惹かれ、仕事で再会した彼にタ食に誘われキスをした。ところが女性と親密そうに寄り添う彼を見かけ、問い質すと婚約者だと答えられた。

●●●●●●●●●●●●●

婚約者、という言葉を聴いた途端にまた貧血を起こしたかのように全身の血が足元に抜け落ち、叶子は思わず踵を返して健から逃げるように歩き出した。彼が口にしたコンヤクシャという言葉が後ろから追い掛けてくる。おぞましく感じられるそのものから逃げたい一心で、いや、彼を含めたすべてから逃れたくなり、駆けるように足が速まる。

「待てよ！」追いかけて来た健に後ろから腕を掴まれ、気づくと彼の腕の中にいた。

「放してよ！」

「いや、僕の話を君が聞いてくれるまで、放さない」

「聞かないわ。そんな話、絶対聞きたくない！」

夢中で答えているうちに目の前に立っている彼の面影が霞んで見え、叶子は自分が涙を流していることに気づいた。まったく、大の女がだらしない、と頭の片隅ではわかっているのに、溢れ出した涙は止まりそうにない。

指先で涙を拭って健を見ると、彼は困惑を浮かべてこちらを見つめていた。口を開きそうになった健の唇に叶子は人差し指を押し付ける。

「何も言わないで。何も喋らないで、こうしてしばらく抱いていて」

叶子がそう言うと健は抱き締めている腕に力を籠めた。鋼みたいに逞しい男の腕。彼の胸に頭を寄せながら叶子は、識る。余計な言葉などいらず、こうしてしっかりと抱き締められているだけで充分なはずだ。男の舌は嘘をつくけれど、温かい胸の鼓動を探っていると、嘘とか真実とか、そんなことはどうでもよくなってくる。それに嘘をつかれたわけではなく、ただ、彼が婚約しているという肝心な事実を知らされていなかっただけだ。

しばらくの後に叶子が彼の胸から顔を上げると、健は当惑を残した微笑を振り向けた。

「さあ、話を聞いてくれる？」

「立ち話ですむ話ではなさそうだけれど、あなたを家に入れる気はないわ」

冷静になった叶子がきっぱり宣言すると、健は失望の色を瞳に浮かべた。

「じゃ、何処か静かなところへ行こう」

健に手を握られて後に続く。何処へ連れて行かれるのか知らないけれど、こうして彼に手を預けていれば、きっと何処かへ辿り着けるような気がする。

＊　愛川耀氏（ペンネーム）はJCAW会員。ブログでワシントン生活を綴るフォトエッセイを連載中（http://blogs.yahoo.co.jp/aikawaakihome）。小説に登場する場所名・店名等以外はすべてフィクションです。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

リッツカールトン・ホテルはKストリートの裏の小路に入り口があり、レジデンスを兼ねているからか、知る人ぞ知るという風情の隠されたエントランスだ。ロビーラウンジには応接セットがゆったりと贅沢に配置され、奥にはバーがあるらしく音楽や客のどよめきが微かに洩れ聴こえてくるがラウンジには他の客の姿はない。

叶子はコーヒーを頼み、健はウィスキーをロックで注文した。

「それで、話って？」叶子の脳裏に再びおぞましい婚約者の三文字が蘇ってくる。

「僕がどうして婚約することになったか、君に話しておきたくなった」

グラスに注がれた琥珀色のウィスキーを見つめながら健が語り、叶子はそれを遮る。

「その話だったら、もういいわ。さっきは取り乱してごめんなさい。でも、どうでもいいの。あなたが婚約していようといまいと」

私には関係ないわ、と出たかった台詞を叶子は呑み込む。そう口にしてしまったら自分でこの関係を握り潰してしまうような気がして、そうすべきに違いないのだけれど、その勇気が出ない。

「どうでもよくなんか、ないんだ。ちっとも」

こちらを見ずに怒りを含んだ声で健は続け、それはあたかも彼が自分で自分を憤っているように感じられた。彼の話によると、二年前に彼は交通事故を起こし、幸い人身事故には至らなかったが、同乗していた女性に怪我をさせてしまい、その彼女は腕と脚にケロイドを残し生涯ビッコを引く身体になってしまったという。女性は健の銀行の取引先の社長の娘で、地方から上京するから観光にでも連れて行ってやってくれと先輩に頼まれて車に乗せたらしい。

「うちの娘を傷ものにして、と親父さんに激怒された。責任は取るんだろうな、とも言われたよ。でも婚約したのはそれだけでもない。僕としては自分の些細なミスで彼女の人生を台無しにしたことを本心から悔やんだんだ。そんな呵責の念から少しでも逃れることができるなら結婚でもなんでもしてやる、って本気で考えた。それに親父さんがそれなりの企業のオーナー社長であるということを計算に入れなかったと言ったら嘘になる。野心に似たものがあったことは、否めない」

そこまで話すと、健はこちらを見て淋しい笑みを口許に漂わせた。それは、僕を軽蔑しているか、と尋ねているようでもあり、叶子は手を伸ばして彼の手を握り、「それで？」と話を促す。

「僕の上司がその話を聞きつけて、大変だったな、と同情してくれた上に国際投融資公社への出向の話を取り付けてくれた。事故で銀行にも迷惑をかけたから体のいい左遷みたいなものだが、まあアメリカで頭を冷やしてよく考えてみろ、と言ってくれたんだ。それで一応婚約はしたが僕は解放された。執行猶予を与えられたようなものだ」

「で、彼女はあなたのことを愛しているの？」

叶子の問いに、健は溜息に似た吐息をついた。

「そんなことは、わからないさ。僕が帰国しないので先週ワシントンへ来た。こっちに叔母さんが住んでいるんだ。ワシントンの大学院へ留学しようか、とか言っている」

「それで、あなたは彼女のことを愛しているの？」

やはり訊かずにはいられなくて叶子が問うと、健はこちらを向いて怪訝な顔をした。

「愛とか恋とかそういう話じゃないんだ。責任感というか、男としてのケジメみたいなものだ」

「でも、愛しているの？その責任感とやらで愛そうと努めたの？」

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

叶子が重ねて問いかけると健は困惑に目を伏せた。

「君にはやっぱり他に好きな人がいるんだね。だからそんな残酷な質問ができるんだ」

「愛していない人と結婚させられる方がよほど酷でしょう？」

醒めた口調で叶子が言うと、健はふっと皮肉な笑みを零した。

「僕はこの際割り切って彼女と結婚しようと決めていた。怪我をさせた償いもあるし、やっていけないことはない、と思っていたんだ。・・そうしたら君に出逢った」

君に出逢った、という健の言葉を反芻して叶子が黙っていると、彼が続けた。

「それも雪でぬかるみが滑る日に白いフワフワした姿でぶつかって来た。定められたレールの上を走るはずだった僕の邪魔をしに来たんだ、君は」

こちらを振り向いた健の瞳に叶子は胸の裡で問いかける。

それで？それであなたは邪魔されたいの？レールを外れても、いいの？

唐突に抱き寄せられて目を瞑ると、しっかり唇を塞がれた。他のことなど一切考えたくなかった。考えられない。今はただ目の前にいるこの彼だけが欲しい。たとえ他の女に属する男だとしても、後のことなどどうでもいいと思え、前にもそんな風に流されて火傷を負ったはずなのに、性懲りもなくまた男の腕の中に飛び込んでいる。いや、今度は違うはずだ。求められたわけではなくて、私が求めた男なのだ。幸せにしてもらいたいわけではなく、彼に幸せを与えたい。好きなんですもの、わけもなく。

オフィスで英語の契約書を読みながら、叶子は時おり卓上電話を眺め、バッグに入れた携帯電話に手を伸ばし携帯がオンになっていることを確かめる。健からの電話を待っているのだ。週末を叶子のアパートで一緒に過ごした後、婚約者に婚約解消を告げるから、と約束して帰った男はそれっきり連絡して来ない。こちらから電話すればすむことなのに、叶子は何故かできないでいる。彼は、待っていてくれ、と言ったのだから、彼を愛しているならば、電話をかけてくるまで辛抱強く待っていようと胸に誓った。もしその誓いを破ったりしたら幸運に背を向けられるような不吉な予感がするので、怖くて動けない。

するとオフィスの電話が鳴り、レセプション嬢がミセス江尻からの電話だと伝えて来た。江尻という名前に心当たりはないが応答すると、電話を掛けてきたのはどうやら健の婚約者の叔母という人物らしかった。電話では詳しいお話ができませんので、と江尻夫人は語り、ランチでも食べながらお話を、と有無を言わせない口調で要請してきた。その件は福永さんとお話し下さい、と断るわけにも行かず、結局叶子は指定されたレストランに出向いたのだった。

ペンシルベニア通りのキンケイドはシーフードで有名なアメリカン・フレンチ料理の店で、ビジネスのランチやディナーにしばしば使われるので叶子も何度か訪れたことがある。お連れ様がお待ちです、とウェイトレスに言われて従うと二階の奥の窓側の席にその江尻夫人が座っていた。薄い唇を真一文字に引き締めた婦人は中学時代の厳しい校長を思い出させる。

「わざわざお呼び立てして申し訳ございません。さ、先ずはランチを注文してからお話しさせて下さいませ」

夫人に慇懃無礼に促がされ、叶子は到底食欲が出る場面ではなかったけれどツナのソテーがのったサラダを注文することにする。

「榊原さんもお忙しいと存じますから、単刀直入に申し上げます。ご存知かと思いますけれど、福永健さんは私の姪、沙織の婚約者です。どういうおつもりで健さんとお付き合いなさっているのか存じ上げませんけれど、健さんを誑かすのはおやめいただきたいのです」

「誑かすなんて・・」叶子が思わず反発しようとすると、黙って、という夫人の手振りに遮られた。一呼吸置いてから夫人は続けた。

「可哀想に、婚約解消などと言い出されて沙織は自殺を図りました」（続）

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の簡単レシピ：「切干大根のカレー炒め」

フードクリエイター　木内 由紀

春先にはここDC近郊もよく雨が降りましたね。日本ではそろそろ梅雨到来。雨の振る日は買い物に出かけるのも億劫になります。そんな時は、家にストックしてある乾物にお願いし、簡単に副菜を作ってしまいましょう。

私は、切り干し大根が大好きで、もっぱら炒めて頂くのですが、そのコリコリの食感が後をひきます。太陽の光をたっぷり浴びて糖化されたこの切り干し大根、生の大根と比べるとカルシウム、鉄分、ビタミンなど栄養たっぷりな素材に変身するのです。

今月は、これを含み3種の、きのこ類、海草類、野菜類と、3種の乾物をいっぺんに摂取でき、小さなお子様にも喜んで食べてもらえるようなカレーバターの切干をご紹介します。これからますます暑さが厳しくなり外出も控えたい季節、夕食の一品、お弁当にもどうぞ。

切干大根のカレー炒め【4人分】

≪材料≫

・切干大根：：50g
・にんじん：：30g
・干ししいたけ：：2枚
・乾燥わかめ：：3g（大さじでざっくりすくって 1）
・にんにくすろおろし：：1/2かけ
・カレー粉：：小さじ 1/2
・バター：：小さじ 1 [a]
・しいたけ戻し汁：：大さじ 2
・中華だし：：小さじ 1/2強
・砂糖：：小さじ 1
・醤油：：小さじ　1+1/2（醤油の半量をオイスターソースにしても美味しい）

≪作り方≫

【1】切干大根、干ししいたけはそれぞれぬるま湯で戻し絞ります。にんじんは千切り、しいたけは薄くスライスします。

【2】フライパンに少々多めの油とにんにくを加え火をつけます。カレー粉も加え炒め、良い香りがしてきたら、切り干し大根、しいたけ、にんじんと順に加え炒めます。

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

【3】わかめも加え同時に混ぜ合わせた [a]をわかめ目がけて注ぎ、ジュワっという音を聞きながら全体を絡め炒めます。水分がなくなったら火を止め余熱でバターを溶かし出来上がり。

≪ポイント≫

乾物は、油や調味料の浸透が早いので、(3)の工程は素早く全体に調味料を絡める事で、均等に美味しさが広がります。

◎ここで使用している切干大根は、韓国産のこの商品、太めのカットで美味しさと歯ごたえいっぱいです。韓国系スーパーの乾物コーナーで買うことができます。

～フードクリエイター　木内由紀　プロフィール～

日々の料理や手作りパン、スイーツのレシピなど1,000以上を、ブログ「ゆちのお料理実験室」で紹介。

簡単でおいしい内容が人気を呼び、テレビや雑誌、企業にも多数レシピを提供している。

現在アメリカ、ワシントンDC近くバージニア州にて活動中。

ブログ：http://oryorijikken.blog48.fc2.com/

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

English Rescue by Jennifer：
「日本人が間違いやすい英語表現④」

ジェニファー・スワンソン

“SEE/WATCH/LOOK at”

Many people ask me the difference between these three verbs. They all mean almost the same thing, but they are used differently.

First of all, SEE is a **non-action verb.** We can see something because our eyes are open. Seeing is a physical action, not a planned action. We cannot use NON-ACTION verbs with the progressives, so we know we cannot say: I AM SEEING a movie. We say: SEE the things in the room, SEE my friend at the mall (same as meet), SEE my friend’s new car.

Next, WATCH/LOOK at are **action verbs.** WATCH means to look at something or someone on purpose, for a sustained period of time. We say: WATCH TV, WATCH a baseball game, WATCH your children playing in the park.

Finally. LOOK at means to look at on purpose; look at something for a reason. Also, we LOOK at something for a shorter period of time than WATCH. We say: LOOK at the clock, LOOK at my iphone, LOOK at the birds in the garden.

Now try your new knowledge:

1. I _____ many things in this room.
2. I am _____ the clock. I want to know what time it is.
3. Bob is _____ TV.
4. I can _____ a bird outside my window.
5. I _____ the new Pirates of the Carribean movie.
6. I need to _____ my schedule and decide the meeting time.

Answers: 1. see, 2. looking at, 3. watching, 4. see, 5. saw/watched, 6. look at

～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。
日米でのさまざまな経験を基に、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

日米協会英語レッスンでは第7期生徒を募集中です。詳しくは：http://www.us-japan.org/dc/pdf/2011/ELS%20Spring%202011%20Registration.pdf

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

6月号編集後記

暦では初夏のはずの6月に入り、ワシントンDC地区では、いきなり真夏を感じさせる高温多湿の日々を迎えていますが、ミシシッピー河畔では洪水、南部や（何と）マサチューセッツ州でも歴史的な竜巻に襲われるなど、やはり全世界的な異常気象の一環なのでしょう。

6月号では、商工会活動として、ベセズダのWhitman高校での日本企業の活動に関する特別クラスへの説明会、新会員等を迎え開催された会員ネットワーキングのための交流会等商工会としての活動報告、その他会員による連載記事に加え、オバマ大統領のブラジル訪問により益々関心が高まっている米・ブラジル関係に関する記事をご紹介しております。4回にわたり萬浪氏にご執筆いただいた「ポトマック河畔逍遥」は、同氏のご帰国に伴い、今回が最終稿となりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

ワシントン商工会では、毎月の会報を通じ商工会の活動を会員の皆様にご報告するとともに、硬軟とりまぜた内容の情報源として、会員の皆様にお楽しみいただけるよう努めて参ります。皆様の忌憚のないご意見、ご提案を歓迎します。

為村、伊藤

JCAW Copyright © 2011 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。